

主題聖句: ゼファニヤ 1章 15節「その日は怒りの日 苦しみと悩みの日, 荒廃と滅亡の日 闇と暗闇の日, 雲と密雲の日」(『聖書協会共同訳』2018年版)。

<序>

千葉県南房総の館山市^{めら きよなん}布良, 鋸南町岩井袋に, 2019年9月9日台風15号が襲いました¹。観測史上最大風速57.5メートル, 送電用の鉄塔50メートルが倒壊, 約400か所の信号が停電でした(『千葉日報』2019年9月9日)。現地地で人と自然が調和した理想郷にすべく手がけておられる俊秀にボランティア訪問を通じて出会いました。「安房文化遺産フォーラム」代表の池田恵美子氏です。現在, 愛沢伸雄(千葉県館山市)氏と共同代表をなさっています。彼女の発行物から示唆されたことがあります。布良という風景です。人工物が無い海岸線, 潮の香りが漂い, 太平洋を照らすまばゆい光線が波に反射しています。海が見える風景に魅了された画家がいました。28歳で早世した青木繁[1882-1911]²です。彼は現代の私たちを比類のない古代日本のトーテミズム³に招きます。青木は, 古事記⁴のヤマトタケル⁵ [72-114]を題材にしました。妻のオトタチバナヒメ^{はしりみず}が走水(浦賀水道)で海を静めるために入水自殺したことを嘆き, 「あずま(わが妻)はや(「はや」は深い詠嘆)」と, 3回嘆息しました。「青木繁『海の幸』記念館」を訪問するたびに, 小谷福哲&由喜枝館長夫妻にお会いします。青木の滞在, 作品, 布良の歴史について説明を聞かせていただいています⁶。

私は青木がその場面を「リ・イマジ」(最構想)して, 描いたのではないかと推し量りました。

池田氏は『まほろば⁷』誌バックナンバーをまとめて贈呈してくださいました。その季刊誌には, フランス人の海洋冒険家ジャック・マイヨールさん⁸[1927-2001]についての記事がありました。マイヨール氏は「人類は万物の霊長ではない。……イルカは6千万年前に, 人間はたかだか350万年前の歴史

¹ 最初に布良地区を訪問。台風被害でほとんど屋根は吹き飛ばされていた。嶋田政雄総合区長(76歳), 青木徹本郷区長から, 独居女性小谷登志江さん(77歳)を訪問して, 励ましてと依頼された。² 階建ての二階部分は吹き飛ばされ, すべての家具, 調度品, 衣類は何もなく, まるで新居みたいにならんとしていた。どの部屋もどろに覆われていた。電気, 水, ガスはとまったまま。行くところがない。一階のひとつの部屋を片づけ, 雨よけに室内にテント, 簡易ベッド, ガスボンベ, キャンプ用ランプなど在宅避難生活に改造。

² 梅野満雄宛の書簡で青木繁は「過日, 僕はクリスチャンの洗禮を受けた」と記す。(『美術研究作品資料第3冊 青木繁『海の幸』)のなかの「青木繁年表(植野建造編)」「青木繁全文集 仮象の想像」の梅野宛書簡(明治40年7月2日付)。

³ Totemism 人間と動植物, 鉱物, 気象などの自然界の現象との間に密接なつながりがあるという直観に発している。自分の祖がそれら自然界の存在(とてむ)とつながりを持ち, それゆえ自分とも深いつながりを持つという考え。『野生の思考 レヴィ=ストロース』(中沢新一 NHK テキスト 2016年28頁)。

⁴ 『古事記(中)』(太安万侶 次田真幸訳 講談社学術文庫 1985年148,155頁)。

⁵ 古事記と日本書紀では表記が異なる。倭建命[記], 日本武尊[紀]。景行天皇の皇子。命を受けて西国に向かい, 女装して九州の熊襲のタケルを討ち, 断末魔のタケルからヤマトタケル(大和の強い人)の称を与えられた。帰途西国各地を服属させて帰還。『神道事典』(森瑞枝共 弘文堂 2013年74-75頁)。

⁶ 青木繁の天才的な才能を見出した黒田清輝[せいき 1866-1924]は東京美術学校(現・東京芸術大学)に導く。しかし, 青木は黒田から離反していく。とくに1907年の審査会で青木にとり屈辱的な扱いを受けて以降, 4年間転落の人生を送り, 不遇の死を迎えた。辛辣な黒田批判が数ページに記されている。「審査問題にて不公平多しといふ, 不公平こそ元來人の本性ならずや。われ美術界の失常識も久しい事ながら, 去る博覧会洋画審査会のごとき誰か一人として真面目に解せる者あろうか。徒党(とど)連携(れんけい), 裏面に辣腕(らつわん)を弄(ろう)して得たりとなす某々(だれそれ)いわゆる大家よ, 寄語(きご)を(きご)を申し伝える(きご)す, 偉なる(えらぶつた)かな足下(そっかく)足もと(そ)の贅瘤(ぜいりゅう)く無用のもの(く)や, 大なるかな足下の癩廢(らいはい)くハンセン病排斥(はいせき)くや, 得失果たして相(あい)償(た)ふの日を有する乎。『假象の創造』(青木繁 中央公論美術出版 1974年30-31頁 岩村改)。

⁷ 「まほろば」とは, 「國の中でもとくに秀でたよい國の意」。『古事記(中)』(前掲書164-165頁 岩村改)。

⁸ 人類で初めて水深100メートルの素潜り記録を達成し, 映画「グランブルー」のモデルとしても知られる。マイヨール氏は来日すると千葉県館山市坂田(はんだ)の常連になった。『まほろば』誌 No.5 (2002年10-11頁)。

があるにすぎない。……かつて、進化の過程で人類とイルカは兄弟だった。イルカは精神文化を
発展させた。その結果、人間は奪い合い、殺し合いをするようになった」と。

頻発する災害による村落消滅の地方危機、エコロジー⁹破壊、全面的破局は宗教と無関係とは
いえません。なぜなら本来人々のところに幸福をもたらす宗教が地域の文化圏を回復させるどこ
ろか支配に加担してきたからです。とりわけキリスト教は創造信仰を強調するゆえの責任が大きい
確信犯です。「神の似像」¹⁰たる人間が自然、生態、地球を植民地主義のように支配してきました。
動物虐待を容認・推進してきたキリスト教神学、ギリシャ思想そのものが悔い改めねばなりません¹¹。
なぜなら4世紀頃に地中海沿岸に始まるキリスト教、初代教父アウグスティヌス[354-430]たちによ
ってできた西方教会(現在のローマ・カトリック、プロテスタント)の「論」(イズム)と実践の枠組み「学」
(ロジー)を形成したからです。重大な歪みを生じさせてきました、と水垣^{わたる}渉は筆者に示唆されま
した¹²。「活動的生活」を通じて、21世紀こそ真の解放への転換点、支配体制の終焉 *skholē* の
カイロスの到来と「エコ・フィロソフィ」へと覚醒させられました。

キリスト教の牧師という立場で痛み、苦しみ、怒り、くやしさをもつ孤児、夫をなくした独身女性、
高齢の独居者を訪問すると、入国できない地があります。しかし、海外被災現場に渡河する際、
「人道支援 ヒューマンエイズ」と訪問先で目的について応えると普通通過できるものです。便宜上の
手段です。目的の本質はニンゲンの権利のためではありません。自然の権利が地の果てにまで
行き渡るために出かけています。国内では「田・山・湾の復活」です。ヒトに支配されている「死せる
自然」に「野生のうたが聞こえる」¹³生態へと転換しよう、と、寝袋をかついで、ホテルに宿泊せずに
ヒマラヤの高山、アフリカのジャングル、砂漠地帯を巡ってきました。

ヒトの権利＝人権をたいせつにする価値観が地球を覆っています。人類は二つの世界大戦、
冷たい戦争を経て、新自由主義経済と体制が変わっても富を喪失しまいとあがく価値観によって
支えられています。戦争、病気、貧困で七転八倒する社会にあっても、生きる「権利」、つまり
「いのち」をないがしろにしないという基準こそ、何人と言えども共通の願いのはずです。

ところで、ヒトの権利ではなく、「動物の権利」は守られてきたでしょうか。

世界は人間以外の権利を認めてきましたか。否、むしろ黙殺、虐待、抑圧してきました。

動物、植物、鉱物などが「神の像」^{かたち}に創られた、つまり神の霊によって創造されたのではないと
いう理由で、人類社会は自然生態を瓦解しても何の良心の呵責も感じない麻痺状態の有り様です。

「我々のかたちに、我々の姿に人を造ろう」(創世記 1:26)によって創造された人間のみが、神
に対して祈り、応答¹⁴、「我と汝」の愛の関係性を構築できるという演繹的な発想がキリスト教の核
になっています。すなわち人間を他の被造物の上に置く階層(ヒエラルキー)を構築してきました¹⁵。

⁹ Ecology の語源: 「エコ」はギリシャ語 οἶκος オイコス *oikos*「家・家庭・家計」に由来。Logy はギリシャ語 λόγος ロゴス「言葉・言語」の由来。学問、研究をあらわす語につく接尾語。

¹⁰ 『客観性の落とし穴』(村上靖彦 ちくまプリマー新書 2023年 20頁)。

¹¹ ハンナ・アーレント[1906-1975]は、『人間の条件』の中でギリシャ思想に遡る「活動的生活」(*vita activa*)がアリストテレスの「政治的生活」(*bios politikos*)が「観照的生活」(*vita contemplativa*)に昇華し、圧倒的に優位になり、中世キリスト教からプラトン哲学自体に遡及された。(26頁)。したがって、「キリスト教神学が、その学問的源泉を聖書だけにでなく、ギリシャ哲学のうちに持つことはよく知られており―「神学」は哲学の一部門の名称であった、「活動」に対する観照、実践に対する理論の優位はプラトンとキリスト教が共有」(『現代神学の冒険』芦名定道 新教出版社 2020年 347頁)。

¹² 拙論「キリストはキリスト教だけのものではない 第1次トルコ・ボランディア報告」(2020年 13頁)。『現代神学の冒険』(前掲書 357頁)。

¹³ アルド・レオポルド[1887-1948] 米国の生態学者、森林管理官、環境保護主義者。「土地倫理」 *land ethic* におけるヒトという種の役割は征服者から共同体のひとりになることを訴えた。『野生のうたが聞こえる』(アルド レオポルド 新島義昭訳、講談社学術文庫 1997年)。ニンゲンの役割は、土地を共同体で征服する者から、その共同体の一員、市民へと転換。“The land Ethic” Aldo Leopold, *A Sand Country Almanac and Sketches Here and There*, New York, Oxford University Press, 1987 p.201-226。

¹⁴ 「われわれはたいてい、受信機をはずしている」と、『我と汝・対話』(マルティン・ブーバー 植田重雄訳 岩波書店 1979年)には、「初めに関係があって私という存在をつくっているとするもので、関係を大切にしたい自己だ」においても「応答」は不可避である。

¹⁵ 「人間が理性と知性により、そのような精神活動(メンス)を持たない地上の動物や海の魚や空の鳥にまさるものになるように、神はこれに靈魂を創造したのである。そこで神は土くれをもって男を形造り、これに今述べた靈魂を与えた」。『アウグスティヌス著作集 第13巻』(泉治典訳 教文館 1981年 145頁)。拙論「アウグスティヌスの生涯と信仰」(キリスト教世界シリーズ KBH 2005年)。

キリスト教会が強かった時代、聖書およびアリストテレス[紀元前 384～322]の教えが「古典」として絶対的な権威をもってきました¹⁶。教会は神の「種」をもっていると喧伝してきました。

「人権が損なわれている」水俣病患者¹⁷、内部被ばくを被った甲状腺ガンの子どもたち¹⁸、ガザ¹⁹の行き場を失ったジェノサイド[集団殺害]のパレスチナの人々のゆゆしい惨状は遠い過去、自分たちの生活圏に決して無縁な悲劇ではありません。幸福を享受する恩恵から脱落している原因は宗教に根っこがあります。いのちに対する深淵な罪の DNA をキリスト教界はまだ払拭できていません。また極端な事例を誇大宣伝して、神の愛の欠如、西欧倫理の短所、自然環境への無慈悲を羅列して革命、一機、転覆をもくろむべきでもありません。よしんば政権、ヘゲモニー、G7 支配体制が変わったとしても、好転する担保はありません。筆者達は呻きの現象の本質、地の異変、抑圧を目の当たりにしてきました。30 年²⁰になろうとしています。無知、無関心、無縁が不幸の本質です。歴史的な水平線の中であって同時代人に証言します。環境生態が土俵際に立たされていることを。

ギリシャ哲学者プラトン、アリストテレスたちの哲学、思想、動物観はキリスト教界にも大きな影響を与えました。聖書には、「空しいだま²¹し事の哲学²²によって、人のとりこにされないように気をつけなさい。それは、人間の言い伝えに基づくもの、この世のもろもろの霊力に基づくものであり、キリストに基づくものではありません」、の「哲学」²³を文字通りに理解すると混乱します(コロサイ 2:8)。ものみの塔が主張²⁴するように文字通りの哲学ではありません。当時のグノーシス主義²⁵のような神話論的救済でした。「どのような教えの風にも弄ばれたり、振り回されたりすること」に対する予防線であったにちがいません。信仰が破船にいたらないための誡めでした(エフェソス 4:14)。

しかし、哲学に関して言えば、キリスト教神学は、ヘレニズム的なパラダイムを捨象することは決してありませんでした。新プラトン主義的思想、アリストテレス的な見解と異なる路線に転換したのでもありません。ギリシャ哲学を土台としてギリシャ精神をキリスト教に高めてきた系譜がオリゲネス[182?-251]²⁶、アウグスティヌス[354-430]²⁷、トマス・アクィナス[1225-1274]²⁸、ジャン・カルヴァン[1509-1564]²⁹へと継承されています。

筆者はキリスト教会の牧師です。基礎はキリスト論です。つまりエコロジー神学におけるニンゲン

¹⁶ 『キリスト教思想の形成者たち』(ハンス・キュング 片山寛訳 新教出版社 2018 年 71,74 頁)。アリストテレスは常軌を逸するほどに、動物と人間の関係性に没頭。5 巻にわたる解剖学論考、『動物誌』、『動物部分論』、『動物運動論』、『動物進行論』、『動物発生論』を著した。「全ての動物が人ではないが、全ての人は動物である」と、『魂と体が合わさって動物ができていく』ゆえに人間は魂を具える唯一の生物ではない」と、『現代思想からの動物論』(ディネシュ・J・ワディウエル 人文書院 2019 年 103-106 頁)。

¹⁷ 拙論「石の叫びに敏感であろう」(宮城学院女子大学・大学院 2017 年 22 頁)。石牟礼(いしむれ)道子『苦海浄土—わが水俣病』。

¹⁸ 拙稿『中外日報』『随想随筆』(2020 年 10 月 30 日)。危険な不溶性微粒子(ホット・パーティクル)の内部被ばくから逃れられない。

¹⁹ 拙論「ガザは能登より光が届かない—パレスチナ問題を考える」(9 条の会 2024 年 2 月 9 頁)。

²⁰ セーレン・キェルケゴール[1813-1855]が言う「世代」、つまり 30 年 拙論「民主主義の限界」(関西学院大学法学部 2023 年 1 頁)。

²¹ エホバの証人が哲学を忌避する理由：“パウロは、「哲学」と「むなしい欺き」とを結びつけています。つまりパウロは、世が提供する知恵はむなしく、人を欺くものである、と見ていた”『ものみの塔』誌(2001 年 8 月 17 日 8 頁)。本稿脚注 21 参照。

²² 哲学のギリシャ語 φιλοσοφία フィロソフィア *philosophia* <φίλος フィロス *philos* 親しむ、愛する + σοφία ソフィア *sophia* 知恵。

²³ ギリシャ哲学というより、グノーシス主義のだまし事の教えと註解。『新約聖書積義事典』Ⅲ(教文館 1995 年 476 頁)。

²⁴ エホバの証人が哲学を忌避する理由：“パウロは、「哲学」と「むなしい欺き」とを結びつけています。つまりパウロは、世が提供する知恵はむなしく、人を欺くものである、と見ていたのです”『ものみの塔』誌(2001 年 8 月 17 日 8 頁)。本稿脚注 21 参照。

²⁵ グノーシス思想の根本的特徴はラディアカルな二元論。『グノーシスの宗教』(ハンス・ヨナス 秋山さと子、入江良平訳 人文書院 1986 年 67 頁)。教組の救済に預かる者、氏族は、死に際して靈魂の旅により、究極的な突破に至る。つまり神が現臨し、罪と贖いを成就したとは考えない。

²⁶ オリゲネスはキリスト教信仰とヘレニズム的教育とを一つに統合しようと試みた。『キリスト教 本質と歴史』(ハンス・キュンク 福田誠二訳 教文館 2020 年 259 頁)。拙論「キリスト教と復興」(関西学院大学 2021 年 5-8 頁)。

²⁷ 拙論「原罪論」(組織神学 USI 神学大学 2011 年 5 頁)。

²⁸ 『キリスト教思想の形成者たち』(前掲書 153 頁)。「聖戦の理念と平和の神学」(近藤剛 日本聖書協会聖書セミナー 2010 年 2 頁)。(『アリストテレス全集 15 政治学』(アリストテレス 山本光雄訳 岩波書店 1977 年 13 頁)。「生あるものに限ると、それはまず第一に靈魂と身体からできている」という生物体の図式の出発点となった。

²⁹ 『キリスト教綱要 I』(ジャン・カルヴァン 渡辺信夫 新教出版社 1982 年 211 頁)。「人間による利用に供するために動物の生命を奪う事は、……道にかなっている」。

の一人として神が現臨したというキリスト論から環境論を考慮してきました。ところが、人間が動物を支配するニンゲン中心主義構図について、ボランティアを通じて、再考を促されてきました。

ヘレニズム思想、ギリシャ哲学はキリスト教の中心的な「元素と基礎」であることは否めません³⁰。

本日は、動物に対する狩猟、虐待、実験などに対して動物愛護グループが熾烈に叫んでも解決できない理由について少し語らせていただきます。それは人類が連綿として継承してきた哲学的思惟、宗教者の世界観、権力者が構築してきた法の構造が元凶としてあるからです。動物を抑圧している首魁に焦点をあてています。ご一緒に考えていきたいと願っています。

目次

第一章	第二章
(1) イルカは海神の贈り物 ^{わたつみのかみ}	(1) スチュワードシップ
a. 能登半島に生息するイルカ 5	a. 生態系の破局
b. 「ノンヒューマン・パーソン」 (人格を有する存在) 6	b. 不毛の地にした責任
c. イルカの展示・飼育禁止条例 8	c. 動物の福祉
(2) 人間ではない人類	(2) エコグラフィ
a. 死を所有する 9	a. 肉食
b. 意識がない＝人格がない 11	b. 動物の虐待
c. 動物のいのちをないがしろにする 13	c. 土地倫理
(3) いのちの誕生	(3) ニンゲンと動物の共生
a. 創造物語 14	a. 動物への謝罪
b. 冷酷な種差別 17	b. エコロジー
c. 動物の解放 19	c. 共同体

52 ヘルツのクジラ、すぐそばにいるのに声も届かない、
なんて悲しいのだろう。逆に本人は 52 ヘルツの声を
出しているつもりで

『52 ヘルツのクジラたち』

(町田そのこ 中央公論新社 2021 年 71 頁)。

遠くから呼んでいうりょうな、離れて行くような声。世界の
果てまで響いていきそうな声。

「このクジラの声はね、誰にも届かないんだよ」

³⁰ アドルフ・ハルナック Adolf Harnack. 1851-1930)である。かれは『教義史教本』(Lehrbuch Der Dogmengeschichte, 3vols., 1886-9)において、「教義はその構想においてまたその仕上げにおいて、福音の地盤の上でなされたギリシア精神のわざである。」(原文は全文ゲシュペルト)という、キリスト教の「ギリシア化」(die Hellenisierung)のテーゼを提出した。……ギリシア的な概念と思惟方法とは、緩慢なギリシア化の過程を通して三一神論やキリスト教の教義的表明の中核にまで適用されている。『哲學研究』第 568 号(水垣渉※ 故有賀鉄太郎先生[1899-1977]生誕 100 年を記念して 2 頁)。※水垣渉は京都大学名誉教授、日本基督教学会元理事長。(社)神戸国際支縁機構設立理事。神戸改革派神学校で 1994 年に筆者に講義。

第一章

(1) イルカは海神(わたつみのかみ³¹)の贈り物

a. 能登半島に生息するイルカ

能登半島能登町の真脇^{まわき}では、イルカを捕獲して食用にしましたが、その初物は献上^{まつ}して祀^{まつ}っている三崎権現^{さんせきけん}³²(現須須神社)に供えるといいます。真脇の北方に位置した珠洲市三崎町沖をイルカの大群が通りました。須須神社では九月の秋祭りや祝い事の際に、イルカが神社前の海岸に姿を見せました。これを「イルカの三崎詣^{まい}り」と称していました。この珠洲市に鎮座する須須神社に三崎権現が祀られており、その使者がイルカという伝承³³があります。

約 1100 万年前のイルカの化石“世界最古の新種”が群馬県安中市^{やすち}の碓氷川沿いの地層から発見されました³⁴。縄文遺跡[紀元前 14,000 年頃-紀元前 300 年]からクジラの骨が出土しています。日本人は古代からクジラを食糧として利用していました³⁵。海外においても、中石器時代人³⁶の食物として北海周辺のデンマークやフランスでは、イルカなどの海生哺乳類が食されていました³⁷。

意外と知られていないことに、体長 4~5 メートル以下の小型クジラ類をイルカと呼びます。

噴霧柱^{ふんぶちゅう}といってイルカも潮を吹きます。生物分類上において、クジラとイルカに明確な境界線はないのです。

イルカの語源はイリカ(入鹿)説が有力です。飛鳥時代[592-710]に蘇我入鹿^{いるか}³⁸という権勢を誇った人がいました。名前は文字通りイルカから取られています。祖父蘇我馬子[うまこ 551-626]の孫です。動物を神聖視する価値観の時代にあつて、動物名をつけたのかもしれませんが³⁹。古事記には「鼻^{なび}毀^これたる入鹿魚^{いるか}」⁴⁰が食用であつたと記録されています。当時はクジラ、イルカは魚類でした。

能登島がある七尾湾に 2001 年頃から、野生のミナミハンドウイルカが棲むようになりました。体長は約 2.5 メートルです。最初は、2 頭でした。家族が増え、現在は十数頭が生息しています。ミナミハンドウイルカの世界最北の生息地となります。その様子は、1.1 大震災以降も海岸から観察できます。能登半島の七尾湾では野生イルカウォッチングに人気あります。浅瀬で透明の海の中でイルカは人なつっこく、船の下をくぐったり、好奇心旺盛です。イルカは参加者に対しても笑顔(イルカ・スマイル)を絶やさなため、都会からの人々を癒すとリピーターが多いとイルカ見学を案内する阪下さとみさん(62 歳)も応じておられました⁴¹。日本で野生のイルカが生息している場所は 4 ヶ所です。石川県の能登島以外に伊豆諸島の御蔵島の周りの約 150 頭ものイルカ、同じ伊豆七島の利島や世界遺産登録の小笠原諸島にも生息しています。

³¹ 海を司る神。イザナギ・イザナミの子である綿津見の事。海神(ワタツミ)の娘がトヨタマヒメ※。「山幸彦・海幸彦」※兄弟伝承の「山幸彦」と結婚。※トヨタマヒメ(豊玉姫 日本書紀), トヨタマヒメ(豊玉毘売 古事記)。※短くして「海彦山彦」。

³² 権(かり)に神となつて現れたということ。temporary manifestation of a Buddha in the form of a Shinto kami。戦国武将太田頼資[すけより 1484-1536]によると、「諺に云傳(つた)へるは、或時権現獅子あるかと宣(のたま)ひしに、入鹿と云(いう)魚有て答しより、権現の使者海鹿(いるか)と云(い)えり。今も此(この)魚を食すれば三年社参(まいり)を忌(い)む也(なり)。入鹿の三崎詣(まいり)と云事あり」『能登名跡志』(編著者太田頼資 書写年不明)。『奥能登国際芸術祭 2020+公式ガイドブック』(出村正幸共 現代企画室 2021 年 55 頁)。

³³ 『日本海のクジラたち』(本間義治 考古堂書店 2003 年 52 頁)。『北國新聞』(2023 年 11 月 20 日付)。

³⁴ 『NHK』(2024 年 5 月 16 日 16 時 22 分)。『読売新聞』(2024 年 5 月 18 日付)。鬼怒川で中学 3 年生が「新属新種」のイルカ化石を発見。

³⁵ 『いきものをとむらう歴史』(依田賢太郎 社会評論社 2018 年 143 頁)。

³⁶ 中石器時代 Mesolithic は紀元前 12,000 年から紀元前 5,000 年の間とされている。「旧石器時代 aleolithic」と「新石器時代 Neolithic」の間の時代。海生哺乳動物などを含めた狩猟採集生活から農耕、牧畜にシフトしつつあつた。

³⁷ Richards, M.P. & R.E.M. Hedges. 1999. Atlantic Coast of Europe. J. Archaeol. Sci. 26; 7171-722.

³⁸ 飛鳥時代[592-710]に蘇我入鹿[不詳-645]という権勢を誇った政治家がいた。蘇我馬子[うまこ 551-626]の孫であり、動物を神聖視する価値観の時代にあつて、動物名を用いた可能性は否定できない。

³⁹ ナガス(長須): 体が長いことに由来。ハダカ: イルカが滑らかで裸のような皮膚故に。

⁴⁰ 食用にイルカを捕まえるとき、銚(もり)で鼻をついたから傷ついた。『古事記(中)』(太安万侶 次田真幸訳 講談社学術文庫 1985 年 195-197 頁)。

⁴¹ 『北陸朝日放送』(2024 年 2 月 7 日 午後 4 時 45 分)。

b. 「ノンヒューマン・パーソン(人格を有する存在)」

イルカの脳の「脳化指数」⁴²は、人間に次ぐ 2 番目の高値と考えられています⁴³。チンパンジー、サル、カラスよりも二倍以上脳化指数は高いことが証明されています。霊長類の社会的知能研究の第一人者と称されるヤーキーズ国立霊長類研究センターのフランス・ドゥ・ヴァール所長は次のように報告しています。「2 頭のイルカが両側から別のイルカを支え、2 頭は気絶したイルカの体を持ち上げ、自分たちの噴気孔は水面下になってしまうにもかかわらず、仲間の噴孔が水面から出るようにしていました」と⁴⁴。同書の 307-308 ページには、「意識を生み出す神経基盤を持つのは人間に限らないことが多くの信頼できる根拠によって示されている」と。つまり過去や未来とつながりを持つプロセスなど、人間の意識と結びついている心的プロセスが他の種でも起こっているという確固たる証拠があると発表しています。こうしたイルカの行動は、ギリシャ哲学者アリストテレス[紀元前 384-322]も、観察して報告しています。「その下へ泳いで行って、背中にのせて持ち上げているのが見られた。まるで死んだ子イルカに同情し、他の肉食動物に食われないようにしてやっているようである」と⁴⁵。

イルカは自分たちを名前呼び合うこと、『*Current Biology*』⁴⁶で音声能力が報告されました。イルカはシグネチャーホイッスル *signature whistle* の一節を反復します。音の高さも変えます。短い部分を付加あるいは削除、音量を変化させ、仲間、および環境を識別します。そうした研究が英文『*Frontiers in Marine Science*』誌に紹介されたことを『日経サイエンス』(2023 年 2 月号)で報じていました。イルカ特有のホイッスル音を媒介として識別が可能となります。イルカの研究者デニス・ハーヅィングはデジタル技術を用いてイルカ言語⁴⁷を人間の言葉に翻訳しています。さらに人間の言葉をイルカ言語に訳出しました。

あのギリシャ哲学者プラトン[紀元前 427-347]ですら、動物には人間を超えられない境界線を設けていました。「人間には神の性格の一部が分けあたえられたので、数ある動物たちのうちでただ人間のみが神を崇敬し、神々のために祭壇や聖像をもうけることを試みた……音声に区切りをつけていろいろな言葉をつくった。」⁴⁸、と。確かに動物は中動態⁴⁹のような文法、統語論、感情の表現能力がないという先入観がヒトは持っています。ヒトだけが高度の言語能力をもっていると思ひこむのは高慢です。アプリアリに動物が話すのではない例が聖書に書かれています。「主が雌ろばの口を開かれたので、雌ろばはバラムに、『私があなたに何をしたというのですか。私を三度も打つとは』と言った。バラムが雌ろばに、『お前が私にひどいことをするからだ。私の手に剣があったら、今お前を殺していただろう』と言うと、雌ろばはバラムに、「私は、あなたが今日までずっと乗ってこられた、あなたの雌ろばではありませんか。私が今までこのようなことをしたことがありますか』と言い、彼は『いや、なかった』と言った」(民数 22:28-30)⁵⁰。

⁴² 脳化指数(のうかしすう, 英語: Encephalization Quotient, 略称:EQ)「脳の重量÷体重の 4 分の 3 乗」。主に動物の脳の発達度を示すもの。「知能指数」Intelligence Quotient, IQ は人間の知能を数値で示す指標。

⁴³ イルカの大脳皮質はヒトより大きい表面積(イルカ 3,745 cm², ヒト 2,275 cm²)。『「イルカは特別な動物である」はどこまで本当か: 動物の知能という難題』(ジャスティン・グレッグ 芦屋雄高訳 九夏社 2018 年 51 頁)。同書 58 ページには、ヒトのみに特有と考えられていた紡錘細胞(VEN=この特別な脳細胞は言語、自己覚知、情動と関連)をイルカは持っているとして論じている。

⁴⁴ 『動物の賢さがわかるほど人間は賢いのか』(フランス・ドゥ・ヴァール 松沢哲郎監訳 柴田裕之訳 紀伊國屋書店 2017 年 176-177 頁)。

⁴⁵ 『アリストテレス全集』8 動物誌下(島崎三郎訳 岩波書店 1976 年 113 頁)。

⁴⁶ “Animal Communication: Do Dolphins Have Names?” RA Barton, *Current Biology* Vol.16 No.15, 2006, R598-599.

⁴⁷ Herzing, Denise L. *Dolphin Diaries: My 25 Years with Spotted Dolphins in the Bahamas*, Macmillan, 2011.

⁴⁸ 『プラトン全集』8 プロタゴラス(プラトン 藤沢令夫 1975 年 139 頁)。

⁴⁹ 拙論「キリスト教と復興」(関西学院大学 2021 年 5 頁)。著者である哲学者國分功一郎東京大学教授の「中動態」の文法説明について疑義を論述させていただいた。選考委員であるヒトは芥川賞を決定したとしても決して完璧とは言えないのでは。

⁵⁰ 『世界史用語集 改訂版』(全国歴史教育研究協議会 山川出版社 2018 年 6 頁)。「出エジプト記」に、ラメセスという街を建設したという記述がある。古代エジプト第 19 王朝のラムセス二世(在位紀元前 1290~紀元前 1224 年, または紀元前 1279 年~1212 年)に基づいて、前 13 世紀、ヘブライ人がモーセに率いられてエジプトを脱出した頃と推断している。(関連聖句 出エジプト記 1:11)。

中世の哲学者ルネ・デカルト[1596-1650]⁵¹は、人間が「思考するもの(res cogitans)」という近代的な哲学的思惟により、人間と自然(動物, 植物, 鉱物)を区分します。「動物は不死の魂をもっていない……, かれらはまた意識もっていない。……動物は単なる機械, 自動機械だ」⁵², と本稿でも注目している倫理学者ピーター・シンガー[1946-]は、デカルトの教説を論難しています。

1970年代, 動物のためにキリスト教会で礼拝が行われるようになりました。初期のキリスト教神学者と異なるアッシジのフランチェスコ[1182-1226]が源流です。貧者に施し, 動物と対話する生き方が新風をもたらしました。それまで動物は人間の目的を満たすために存在すると考えられていたからです。フランチェスコは動物を階層の底辺においやらず, 自然物を自分の兄弟姉妹として接しました⁵³。グルーエン⁵⁴氏にはヒュパティア[370-415 女性哲学者], 動物解放, フェミニズムなど特筆すべき著述があります。キリスト教批判の先鋭の『機械と神』の著者リン・ホワイト⁵⁵[1907-1987]ですら褒めます。画伯菅原洗人⁵⁶[1931-2013]の絵「小鳥に説教をする聖フランチェスコ」には, その前で鑑賞する人たちの流れを止める聖性の光があったようです。さしずめ日本では良寛[1758-1831]さん, 西洋では聖フランチェスコです。しかし, シンガーは聖フランチェスコをバツサリ酷評します⁵⁷。動物虐待を推進してきたキリスト教に対するクリティック[批判]精神が豊かな方なのでしょう。

デカルトのように二元論思考⁵⁸で斟酌なさらないでください。アンビバレント⁵⁹な視座があって, はじめて, 本稿の命題である「動物解放」が道理にかなっているかどうかご判断いただきます。

イルカは「親和行動」により, 並んで泳いだり, 胸ビレで相手の体側に触れたまま泳いだりします。胸ビレで相手をこする(ラビング⁶⁰[優しく接触する行為])のは体表面の古い皮膚を落とす機能もあるので社会的毛づくろいとみなす研究者もおられます⁶¹。アメリカの神経生物学者ローリー・マリノ博士はイルカについて「人間以上に社会的な動物である」と言われます⁶²。ただし飼育にあたり, “傷ができるほど, 体に対象物をこすりつけることがある。餌を吐き戻し口に入れることを繰り返す, 遊具を繰り返し噛む, 水槽内を……周回する行動があるが, それらが遊戯または通常の遊泳なのか, 常同行動かを区別するのは難しい”, と異常行動の子細はまだわかっていません。

イルカは音声以外に, まだ解明されていない発する音の周波数やパターン, 表情や視線, 姿勢など「動作で表れるもの」, あるいは相手との間にある「間」, 「距離感」による「空間に表れるもの」などの非言語コミュニケーション⁶³も, 現段階の AI 技術などでは判明していない未知の領域です。

⁵¹ 1995年, 神戸改革派神学校の春名純人[1935-]講師は環境破壊, 社会的倫理的問題, 暴力支配の淵源がデカルト的合理主義にあると筆者の傲慢な理性と認識を正した。『哲学と神学』(春名純人 法律文化社 1994年 249頁, 拙論「キリスト教と復興」(関西学院大学 2021年 14頁)。デカルトは17世紀に始まる科学技術の発展の基礎を築いた。数値による価値観を強調, 能率が優先されるようになる。人間は自然の上に立つというデカルト哲学のもと, 科学は発展し, 産業革命が起こった。しかし, 環境破壊の序章となる。拙論『田・山・湾の復活』— 宗教倫理学会夏季一泊研修会 — (関西大学飛鳥文化研究所 2013年 4頁)。

⁵² 「意識」を不死の魂とデカルトは説いた。『動物の解放 改訂版』(ピーター・シンガー 戸田清訳 人文書院 2020年 250頁)。

⁵³ フランチェスコは自然に対する専制君主的支配と異なると。『現代を生きるキリスト教』(土井健司共 教文館 2000年 249-251頁)。

⁵⁴ 動物倫理の米ウエスレヤン大学ローリー・グルーエン哲学部教授はフランチェスコを高く評価した。『動物倫理入門』(河島基弘訳 大月書店 2015年 3頁)。グルーエンは種差別, 動物実験, 動物園, 肉食など動物の権利を詳細に擁護している。

⁵⁵ キリスト教は, 人と自然の二元論をうちたただけではなく, 人が自分のために自然を搾取することが神の意志であると主張。自然物の感情を気にしないような仕方でも自然を搾取することができるようにした。一方, フランチェスコに対しては絶賛。「被造物にたいする人間的な支配権……(と)はまったく違っている」と。『機械と神』(ホワイト 青木靖三訳 みすず書房 1972年 88, 94頁)。

⁵⁶ 神戸バイブル・ハウスの展示会 2006年9月。『朝日新聞』(2020年9月14日付)。拙稿『中外日報』(2013年5月21日付)。

⁵⁷ 「聖フランチェスコは鳥や牛を愛したにもかかわらず, それらを食べるのをやめなかった」。『動物の解放 改訂版』(前掲書 246-247頁)。

⁵⁸ 拙稿『目薬』誌 No.23 (2001年 3,5頁)。

⁵⁹ Ambivalence は「矛盾した, 相反する感情・精神」の意で心理学や文学。アンチノミーは「矛盾した, 対立する論理・理論」の意でもおもに哲学や論理学。⇔表裏一体に終始する。思いに両論を同時に抱いている ambivalence ドイツ語アンビヴァレンツ (ambivalenz)の思惟が動物解放, エコ・フィロソフィを構築するのに必定である。

⁶⁰ 胸鳍(ひれ)で相手をこする個体をラバー rubber, こすってもらう個体をラビー rubbee。古い皮膚や外部寄生虫を落とす衛生的機能と考えられている。32組の母子ペアでは母が子よりも頻りにラビーになる傾向がある。「何らかの利益を交互に受ける親和的な社会活動」。『ケツの知恵』(村山司 & 森坂匡通 [ただみち] 東海大学出版会 2012年 134-135頁)。

⁶¹ 『動物行動図説』(朝倉誠造 動物の行動と管理学会編 朝倉書ニュージーランド店 2024年 158頁)。

⁶² 『イルカの鳴音とコミュニケーション』(森坂匡通 <https://store.ad3.jp/products/detail/436>)。

⁶³ 拙論「キリスト教と復興」(関西学院大学 2021年 14頁)。

c.イルカの展示・飼育禁止条例

1840[天保11]年、豊秋亭里遊^{ほうしゅうていりゆう}は、肥前国[佐賀県]藩呼子浦^{よぶこ}における江戸時代の捕鯨^{もり}について記録しています。メスと子クジラの捕鯨の観察した記録によると、多数の鯨を撃ち込まれ、血で真っ赤に染まった海面を描写。「母子一緒の断末魔、苦しむ声は山々に響き渡ってすさまじく、身の毛もよだつほどである。鯨を捕って売りさばければ、たしかに小判の山をもたすけれども、このような情こまやかな鯨を殺すことを生業として妻子を養い、世を渡ることになんらの悔悟の心を持たず、いたずらに金銭の浪費するとしたらなんとも恐るべきことである。」⁶⁵、と。

近年、クジラ目^{もく スイテエイシヤンズ} cetaceans⁶⁶の動物を「ノンヒューマン・パーソン(non-human person 人格を有する存在)」と認め、飼育を禁止する国が増えています。ブラジル、オーストラリア、アイスランド、インド、チリ、コスタリカ、クロアチア、ノルウェー、ハンガリー、米国、ボリビア、キプロス、ニュージーランド、ギリシャ、ニカラグア、スイス、カナダ、韓国などは、イルカの「飼育」・「展示」を禁止しています。

1978年、パリのユネスコ本部において「動物の権利の世界宣言」⁶⁷が採択されました。

1901年、日本では「漁業法」(旧漁業法)が公布され、翌年7月1日から施行。「漁業法施行規則」(農商務省令)4条に「一定ノ追込場ヲ有スル海豚漁業(第2種)」と定めました。イルカの追い込み漁(鯨類追込網漁業)は、「和歌山県漁業調整規則」7条1項2号チに基づき、県知事が今なお許可しています。金属棒を叩いて追い込む方法。入江が血で真っ赤に染まる追い込み漁の残酷なドキュメンタリー映画『ザ・コーブ The Cove』(2009年)はアカデミー賞長編賞を2010年受賞。これを折に追い込み漁に対する国際的非難が高まりました。キャロライン・ケネディ元駐日米国大使が、2014年1月17日、自身のツイッターで「米国政府はイルカの追い込み漁に反対します。イルカが殺される追い込み漁の非人道性について深く懸念しています」、と。

日本の水族館業界の重鎮である内田詮三氏は『水族館も動物園も“悪行”』、と言い切られました。人間は生きるために動物の命を奪い、肉を喰らうという宿命を負っており、人間と動物との関係はきれいごとでは割り切れない、と⁶⁸。

2015年、日本動物園水族館協会(Japanese Association of Zoos and Aquariums, JAZA)は国際的圧力を受け加盟施設が日本伝統の追い込み漁でのイルカ入手することを禁止しました。

それでも今なお、和歌山県、静岡県、東北地方でイルカ漁を行っています。

イルカ追い込み漁⁶⁹を和歌山県太地町で、2021年度の内訳は、イルカ622人を捕獲、水族館用に140人です。食用と展示用に振り分けられています。捕殺方法も国際批判があったからこそ、

⁶⁴ 当時欧米は主にクジラの脂を求めて世界の海を競うように捕鯨をしていた。1853年にペリーが来航ペリーはもともと、ジャバングランドと呼ばれたクジラの漁場で捕鯨をするための物資や水などの補給基地として開国を迫った。ジョン万次郎[1827-1898]は、1860年、日米修好通商条約のためアメリカに行く使節団の通訳、技術指導員として同行した。その後は、捕鯨活動、小笠原開拓などで活躍し、1870年に漂流をしたときに救助し、養子としてくれたホイットフィールド船長と再会を果たす。帰国後、病に倒れて71歳で生涯を終えた。捕鯨で生き延び、アメリカの存在を鎖国している日本に伝え広めた、万次郎をたたえ、故郷の中浜には生家が復元され、足摺岬には銅像が立っている。

⁶⁵ 『小川嶋鯨鯢(おがわじまげいげい)合戦』動物と人間—関係史の生物学』(三浦慎悟 東京大学出版会 2018年 665-666頁)。

⁶⁶ 海生哺乳動物の総称。

⁶⁷ 第十条「いかなる動物も人間の娯楽のために利用されてはならない」「動物の展示と動物を使った見世物は動物の尊厳に反する」。

⁶⁸ 『三田評論』(佐渡友陽一[さどとも] 2017年6月1日号) <https://www.mita-hyoron.keio.ac.jp/features/2017/06-3.html>

⁶⁹ 「古式捕鯨の発祥の地とされる和歌山太地町。世界動物園水族館協会(WAZA)から除名勧告。追い込み漁はまだ50年の歴史。イルカの追い込み漁の歴史は半世紀弱しかない。スピードが速く、追い込みにくいイルカは元々は銃やもりで捕っていた、生け捕りが期待できる追い込み漁による捕獲は、事実上、水族館のために始まった。1969年に開館した町立くじらの博物館の創設関係者によると、博物館に入れる鯨を生け捕りにするため、漁協と協力して当時途絶えていた鯨の追い込み漁を復活させたという。同年夏に最初のゴンドウの生け捕りに成し、数年後には泳ぎの速いイルカの捕獲にも初めて成功。これが日本の水族館の風景を」一変させた。ハンドウイルカ bottlenose dolphin(九州では「バンドイルカ」「ハンドウイルカ」)の若いメスの個体(体長2メートル30センチ〜2メートル50センチ)は1頭100万円、食用は1頭2万〜3万円にしかならない。『毎日新聞』(2015年9月19日付)。

現在、捕殺時間も約 10 秒に短縮されています。しかし、イルカの群れは家族単位です。非常に強い絆があります。群れから無理やりに引き離されるストレスは極限に達します。「追い込み猟」は、イルカに大きな恐怖を与えます。太地町だけで 2021 年にイルカ 51 人が殺されています。

人間様のために、いのちが軽んじられています。食肉・展示から保護へは日本を除く世界的な潮流です。イルカのサンクチュアリ[聖域]は狭い水槽では窮屈です。大海原で自由に仲間と泳ぎ、深くもぐり、水圧に合わせて体を微調整できる環境は不可欠です。水族館は面積が狭く、飼育環境も悪いため、毎日、死魚を運び出します⁷⁰。展示ガラス水槽内で餌を与えているように飼育係がいるのは死骸を処理しているのです。水族館のプールは動物にとり、病気とストレスだらけです。イルカの人工繁殖は死亡率が高いです。海外はイルカショーに終止符の時流です。にもかかわらず、日本は逆行しています。たとえば、2024 年 6 月 1 日以降、神戸市須磨区にオープン「神戸須磨シーワールド」はシャチ⁷¹、イルカの演技が目玉です。

(2) 人間ではない人類

a. 死を所有する

今年の元旦、1.1 大震災で、隣の家の倒壊によって犠牲になる場合もありました。レバノンのベイルートで、奥能登の津波、地震情報を耳にしました。帰国し、その足で、ハイエースに水、食料、ブルーシートなどを積み込んで、石川県輪島市に 1 月 5 日に訪問しました⁷²。輪島市の七階建て五島屋ビルが倒壊していました⁷³。隣接する自宅兼居酒屋はその倒壊の下敷きになりました。

輪島市河井町の楠健二さん(55 歳)は亡くなった妻由香利さん(48 歳)と長女珠蘭(19 歳)が下敷きになり亡くなられました⁷⁴。「痛い」「水飲みたい」。目の前で珠蘭さんの声が響く中、助け出すことはできませんでした。「いのち」が尽きていないにもかかわらず救出ができなかった無念は察するにあまりがあります。2016 年、筆者の配偶者は末期ガン^{しんじゅん}のため、兵庫県立ガンセンターで治療を受けましたが、万策つきました。ガン細胞が骨にまで浸潤し、24 時間激痛が襲いました。珠蘭さんにして、妻カヨ子にしても「意識」がありました。17 世紀の哲学者のジョン・ロック⁷⁵は、「意識」consciousness

⁷⁰ 1970 年代、筆者は神戸市垂水区西舞子での結婚生活。西舞子の海岸で早朝に網ですくった暖流の小魚を飼育に熱中した。理由は配偶者に負けないモノがないかという単純な動機だった。泳げない妻に見せつける事柄に海水魚飼育へと挑戦した。奈良県香芝町逢坂育ちのカヨ子①はどんなに凶暴な犬、猫たちもすぐになつき、昆虫や小さな生き物を目ざとく見つけ、鳥と会話できた。初対面の人からも信頼される人格と比較して、自分の方は劣等感に落ち込むばかりだった。そこで始めたのが海の生き物の飼育だった。ところが浜ですくってきた魚たちはすぐに死んでしまう繰り返し。出勤前の未明のうちに昆虫用捕虫網をもって浜に出かけた。沖繩にしか生息しないはずのチョウチョウオも 1 週間もたない。神経を使ったのが水質管理。塩分、他の要素が高濃度になると毒性になるため配慮する。海水魚やインゲンチャクなどに適切な環境作りに専門書を次々と読んだ。また「須磨水族館」(1957 年開設)に出かけて、飼育係に質問してどうしたら白点病にかからないか、魚を死なせないことを尋ねた。書籍には、NH₃[無機化合物であるアンモニア]、HNO₂[窒素のオキシ酸である亜硝酸]や、HNO₃[硝酸塩]など pH を適切にせよと書いてあるが一向にわからないことばかり。なんども挫折した。「人間が万物の尺度である」という理性(レゾン)ゆえ、次々と魚などを殺しても、一貫して、心が痛まなかった。『教会と国家』(カール・バルト 蓮見和男訳 新教出版社 1954 年 104 頁)。

かつてのほろ苦い記憶がある「神戸市立須磨海浜水族園」(1987 年～2023 年)を 10 年ほどして訪問。リニューアルしたばかりだった。筆者がエホバの証人から集団離脱②した直後にその仲間たちと訪問。波の大水槽を見て、「私は主、あなたの神 海をかき立て、波を騒がせる者。その名は万軍の主」(イザヤ 51:15)。「伝道」して教勢を拡大する宗教活動は、「波」そのものだった。勤務先、親戚、友とも縁を切り、大波、小波、荒波にもまれた。そんな宗教遍歴の中で、嘘をつくこともなく、裸で付き合えたのがヒトではなく、蝶などの昆虫、山、海などの景観だった。やがて 9・11 テロ、阪神・淡路大震災、東日本大震災から「田・山・湾の復活」を目指した。

① 死後、「エコ・フィロソフィ」を追究する「カヨ子基金」の名前の由来。② 拙論「現代キリスト教弁証学」(2023 年度春学期 中央聖書神学校(Central Bible College) エラスムス平和研究所所長)。

⁷¹ シャチは分類上、マイルカ科に属する最大のイルカ。

⁷² 拙論「1.1 大震災ボランティア報告」(神戸国際支縁機構 2024 年 1 月 6 日)。

⁷³ 『北陸中日新聞』(2024 年 1 月 17 日付)の第一面に、筆者が倒壊による犠牲者に祈る場面が写真で報じられた。

⁷⁴ 『北國新聞』(2024 年 1 月 29 日付)。

⁷⁵ ジョン・ロック[1632-1704] イギリスの哲学者。「人間のすべての知識は経験することで身につく」経験論。

があるところに「人格」^{パーソン}person⁷⁶があると言いました。ロックは、「私」あるいは「自我」と名指される主体性を「人格」と捉えて、それを「実体」や生物的「人間」から区別しました⁷⁷。ックは人格を確立する契機として、その根拠を「意識」に求めました。たとえば、法廷で酔漢を罰する際、酔漢が泥酔し記憶がない場合、その酔漢の「人格」に「意識」がどうであったかを問われるわけです。なぜなら自己決定できた「人格」は功罪を犯したヒトの法的な主体概念だからです。本人に責任があったと判断する根拠になります。コロラド大学の形而上学のマイケル・トゥーリー教授[1941-]は、『嬰兒は人格を持つか』の中で「パーソン」とは、「生存する道徳的権利をもつ」と規定しています⁷⁸。2016年7月26日未明、相模原市の知的障害者施設「津久井やまゆり園」⁷⁹で知的障がい者19人を殺害、26人に重軽傷を負わせた事件がありました。「こいつしゃべれないじゃん」と、入所者の応答が無いと、次々と殺りくしていきました。優生思想⁸⁰がからむ凶悪犯罪として映画化もされました。自分の意識を表示できないと処刑の対象になったわけです。たとえば、ウイルスのせいで扁桃腺が腫れていたため声を発することができない場合もあるかもしれません。あるいは寝起きだから、人と話したくない気分だったゆえに犠牲になる悲運です。犯人が被害者を「ニンゲンではない」と判断し殺害したのは無用な存在と妄信したのでしょう。たとえば、覚醒剤によって幻覚症状での発作的な常軌を逸した振る舞いだったら情状酌量の寛容さを示せますか。事後、自己の内に自分でもわからない駆り立てた衝動、妄想、抑止が働かないことによるものだと、冷静になった時、話されたら客観的に情状酌量と聖人君主よろしく許せますか。

ニンゲンが部屋に侵入してきた小ハエをいともたやすく打ちたたくのは、ニンゲンにとって無用と瞬時に判断したからです。その微小ないのちなど無価値と意識的、否無意識的に速断したのです。「障がい者は生きている意味がない」の素因と小ハエを「生きている意味がない」のディスタンクション⁸¹(distanciation)に私たちは無頓着であります。

したがって、自分は無意識に殺害に加担していること、相手が人間ではなく、意識がないいのちに手を下していることそのものから、自己吟味すべきです。

「生きものを(みずから)殺してはならぬ。また(他人をして)殺さしめてはならぬ。また他の人々が殺害するのを容認してはならぬ。……すべての生きものに対する暴力を抑えて」。(『ブッダのこぼれ』394)。釈迦は殺生を禁止しました。仏教国へと日本を祭政を司った天武天皇⁸²[?-686]は675年、狩猟、漁撈規制と肉食禁止令を最初に発布しました。釈迦は、殺生を禁止し、狩猟を嫌忌し、獵人、漁師、肉を売買する人々(旃陀羅)⁸³を最も卑しい人々と考えました。ネパールに孤児の家を造りに行った際、ダリット層というアウトカーストの廃品集積場に日本からの筆者や大学生たちは寝泊まりしていました。「今度生まれて来る時は、ダリットになって生まれたい」と言うと、そこへ2019年7月

⁷⁶ 「パーソン」(ギリシャ語 ヒュポスタシス、ラテン語「ペルソナ」*persona*)。ペルソナは、近代の人格概念の意ではなく、見せかけの状態の区別ではなく、他のあらゆるものから区別される存在のありかたそのもの、個別的自存性を意味する。一般に「位格」という訳語。『改革派教義学 2』神論(牧田吉和 一麦出版社 2014年 87頁)。

⁷⁷ 『死の場所—死刑・殺人・動物利用に向きあう哲学—』(一ノ瀬正樹 東京大学出版会 2011年 133頁)。

⁷⁸ 『死の場所—死刑・殺人・動物利用に向きあう哲学—』(前掲書 136-137頁)。

⁷⁹ 拙論「死者のために祈ってもはや手遅れなのか」—第2次熱海土砂災害ボランティア—(2021年 3-4頁)。

⁸⁰ 拙論「宗教はコロナウイルス後の社会をどう目指すか」—第1章(WCRP 平和大学 2022年 14頁)。

⁸¹ 「異化」 差異化、距離を置く事。ブレヒト[1898-1956] (20世紀を代表する独の演劇家)が用いた〈異化効果 *Verfremdungseffekt*〉に由来。

⁸² 天智天皇の後継者、持統天皇は皇后。『神々と肉食の古代史』(平林章仁 あきひと 吉川弘文館 2007年 173頁)。

⁸³ 拙論「解放の神学とは何か」(神戸国際キリスト教会 2021年 6頁)。どんな宗教も「浄」と「穢」の二つの「聖」観がある。ネパールではダリット層はアプリアリにカースト制から抜け出られない世界観が受容されていた。「浄・不浄」、「聖・穢」という身分制がある。被差別部落の人は、極貧の生活の中でも寺院への寄附は喜んで行ったが、あの世でも身分は引きずっている。宮城県石巻市の西光寺で、樋口伸生副住職に見せていただいた墓碑には、「隸」、「畜」、「旃陀羅」の差別戒名が残っていた。『広説佛敎語大辞典中巻』(中村元 東京書籍株式会社 2001年 1039頁)。「人間とはみなされない」と解説。

18日、ヒンドゥー教徒の現地の責任者ハリ・マハラジャンも一緒に宿泊しました。電気もなく、臭いがし、虫が這う、濡れている地べたでした。

彼の家族、世間にとり想像できない、本来なら許せない衝撃でした。差別の原因は、ダリットや、被差別部落の人々にあるのではなく、体制側の支配構造にあります。

仏教の経典にある「旃陀羅」は、日本でも「人間外の人間」、「ノンヒューマン・パーソン」、「非人」でした。底辺に追いやられる階層が存在するのは、王など貴人、特権階級、天皇が頂点に君臨するには必要不可分の構図です。階級があるかぎり、解消されない宿命的な交差することのない境界線が横たわっています。西光万吉⁸⁴ [1895-1970]が、1922年、日本で最初の人権宣言と言われている「水平社宣言」を創立大会で読みあげました。キリストの荊冠⁸⁵を旗印とした水平社結成を推進した者や結成後の同人のなかに、ひとりのキリスト者も見いだし得ないのは、賀川豊彦[1888-1960]の人種起源説に因がありました⁸⁶。賀川は時代のエトスを吸い込みすぎていたとしか思えません。賀川が被差別部落の人々を日本人と異質であるとして遺伝的特質に結びつけた理由はあまりにも薄弱でした。かつて宗教改革者マルティン・ルター[1483-1546]がユダヤ人差別⁸⁷を否定するどころか是認したケースと同質だと筆者は憐憫の情を禁じえません。果たした業績をどんなにひいき目に見たとしても歴史的評価は残酷にならざるを得ません。賀川もルターも現実を透徹したモラルが幼かった、過誤がありました。エクスーシア層の代々の諸政策に抗うクリティック[批判]もしませんでした。「現代は、まことに、批判の時代であり、一切のものが批判を受けねばならぬ」というイマヌエル・カント⁸⁸[1724-1804]の理性主義が不徹底だったのでしょうか。つまりいかなる人間も神の聖性には及びません。

中には、人権のために命を顧みず世のエトスに歯向かった田中正造⁸⁹[1841-1913]や、布施辰治⁹⁰[1880-1953]がいたことは慰めになります。

動物が四つ足であることから、「四つ」という、などの部落差別⁹¹はなお消えていないことの真因は、ギリシア思想、宗教にあると私自身責任を痛感します。

b.意識がない＝人格がない

認知症患者、精神障がい者や嬰兒は感覚があるが、自己意識がないから「人格」はないと定義できますか。つまり「ボクは生きたい」とか、「乳を飲みたい」、「喉がかわいた」、「ねこちがわるい」という意識を表現できない嬰兒がむずがります。母親たちは生命が誕生したと喜び、体感します。

たとえば、人工中絶をするかどうか嬰兒は言語でコミュニケーションもできません。「いのち」の判断基準を考える際、「自己意識」があるかどうかで「人格」があるかないかと判断してもよいのでしょうか。

⁸⁴ 戦前日本の部落解放・社会運動家、政治運動家、著述家。本名清原一隆。浄土真宗西本願寺派西光寺住職の長男で、賀川豊彦[1888-1960]と交友があった。『キリスト教と部落問題』(工藤英一 新教出版社 1983年 253頁)。

⁸⁵ 十字架上のキリストの受難の象徴。神戸国際キリスト教会のロゴマークのひとつ。

⁸⁶ 『貧民心理之研究』(賀川豊彦 警醒社書店 1915年 98頁)。「穢多……起源説……私は主として、人種説を取る」の解説が水平社との分断の決定的要因である。拙稿『神戸と聖書』(神戸新聞総合出版センター 2001年 209-210頁)。

⁸⁷ “On the Jews and Their Lies”, Martin Luther, 154, 167, 229, cited in Michael, Robert. Holy Hatred: Christianity, Antisemitism, and the Holocaust, New York: Palgrave Macmillan, 2006, p.111

⁸⁸ カントは、神は知られうる対象あるいは現象ではなく、信仰によってのみ近づきうる超越的実在である、と論じた。

⁸⁹ 『災害と共生』(佐々木美和 大阪大学大学院人間科学研究所 2023年 10-11頁)。『日本で神学する』(西原廉太, 大宮有博 新教出版社 2017年 311頁)。

⁹⁰ 弁護士の布施辰治は、人権が踏みにじられていた在日朝鮮人のために戦った。「生きべくんば民衆とともに、死すべくんば民衆のために」、「争ふことに決心した以上は、あくまでもその決心を貫ぬくやうに結束を固めて戦ふべきで…結束の中へ死んでも踏みとどまるべきである」。拙論「宗教はコロナウイルス後の社会をどう目指すか—第2集」(WCRP 平和大学講座 2022年 8頁)。

⁹¹ 羽生病院内で発生した差別事件で、見舞いにきていた M が、二人の部落出身者の前で「あの辺の〇〇(名字)は、みんなこれだ」と4本指を示して侮辱したもの。『解放新聞』(2004年 3月 29日)。2023年 10月で「水平社」運動が 100年。現代ではインターネットを介して発信される差別的な発言が後を絶たない。「生きていても迷惑なだけだし消す。逝け。」と。『神戸新聞』(2023年 10月 27日)。

「意識」＝「人格」が道理にかなっているとの思潮は一朝一夕で構築されもしなければ、また否むこともできません。

著書『エチカ』で影響力のある17世紀の近世合理主義哲学者バールーフ・デ・スピノザ[1632-1677]は、宗教のヒエラルキーから排斥されました。ユダヤ教⁹²から破門され、キリスト教とも距離を置きました。「神即自然」とスピノザは自然界を説きました。仏教者の唱える「山川草木悉皆成仏^{さんぜんそうもくしつかいしやうぶつ}」という性状、形態、属性の発出は神であることとなります⁹³。「人災なら天地に生命を戻すことが人間の務めである」と言った田中正造や、神学者のパウル・ティリッヒ⁹⁴[1886-1965]も被造物が有する命が自然界にあると述べます⁹⁵。ティリッヒの存在論と聖書の宗教の人格主義との間には緊張関係(tension)があると考えます⁹⁶。ただし、スピノザにとり、当時のエートスに抗えなかったと筆者は思われます。「理性を持たないと言われている動物の感情(じっさいわれわれは精神の起源を知った以上、獣が感覚することを疑うことはできない)は人間の感情と、ちょうど動物の本性が人間の本性と異なるだけ異なっている」⁹⁷、と論じました。

上智大学の法学者ホセ・ヨンパルト名誉教授[1930-2012]⁹⁸を神戸バイブル・ハウスに講師としてお招きしました。当時、死刑を否定する思潮が法律関係者、仏教者、良心的兵役拒否者にはありました。しかし、ほとんどの日本国民は宗教に関係なく、死刑廃止論者が優勢でした。三代目のローマ・カトリック教会信徒、その後宗教遍歴する中でも耳にすることがない竹籠の講義でした。ヨンパルト氏の「死刑」廃止論⁹⁹は即座には受容できませんでした。なぜなら人間は生殺与奪の権を歴史上行使してきたからです。死刑は正当な権利なのではと自問する転機になりました。

主権的権力にイタリアの哲学者ジョルジョ・アガンベン[1942-]は、エクスーシア(権力)¹⁰⁰が行使する生と死の暴力¹⁰¹に注目しました。「法の掟から生を引き剥がし(『人を犯さず殺す』)、かつ神域からもそれを引き剥がす(『供養にすることなく殺す』)という企てにある。主権は断罪という行為の中で、主権自体が禁じる行ないに手を染める(ゆえに国家は『外見上、法に矛盾することなく殺しを遂行し、処刑において死刑囚を神域から跡形もなく除外する』権利を手許に置く)。……地上における国家形成は、暴力の領域から神の脅威を除き去る作業に懸かっている。死刑囚の体は神への供物ではなく、法の暴力が立てる境界線となる」¹⁰²、と。

⁹² 中世最大のユダヤ教哲学者のモーシェ・ベン・マイモニデス[1135-1204]は、「アリストテレスが『月下の』世界の諸物に関して述べたすべてのことは『疑いなく真理である』」、と述べた。『マイモニデス伝』(A.J.ヘッセル 森泉弘次訳 教文館 2006年 183頁)。パスモアは、後にマイモニデスが「人が存在するが故に万物が存在すると信じるべきではない。それどころか人以外の存在者もすべてそれ自体のために向けられているのであって、それ以外のもののために向けられているのではない」、と。創世記からユダヤ教的態度に翻ったのを詳らかにした。すなわち人が造られる前から、墮落する前から、地は「甚だ善かりき」(創世記 1:31)という創造論に回帰している。『自然に対する人間の責任』(J.パスモア 間瀬啓充訳 岩波書店 1998年 18頁)。

⁹³ 『森の思想が人類を救う』(梅原猛 小学館ライブラリー 1995年 193頁)。梅原猛[たけし 1925-2019] 哲学者。立命館大学教授、国際日本文化研究センター所長、「九条の会」呼びかけ人。中国仏教独自の思想「草木国土悉皆成仏」は、日本では空海[774-835]が始めたと言われている。拙論「キリスト教の弔い—現代問われている死生観」(日本「祈りと救い」学会 2016年 10頁)。

⁹⁴ 拙論「キリスト教とボランティア道—水平の〈運動〉から、垂直の〈活動〉に—」(宗援連 東京大学 2015年 7頁)。

⁹⁵ 拙論『ダムと伐』(「小さくされた人々のための福音」講座 神戸市勤労会館 2021年 8月 20日 8頁)。

⁹⁶ 拙論「キリスト教と復興」(関西学院大学 2021年 4頁)。

⁹⁷ 『スピノザ全集Ⅲ』(エチカ 上野修・鈴木泉訳 岩波書店 2022年 172頁)。

⁹⁸ 「いのちの文化対死の文化」(ホセ・ヨンパルト 神戸バイブル・ハウス公開講座 2003年)。

⁹⁹ 世界を見渡すと死刑廃止の国が多くなっているが日本にはまだ死刑制度があるデータを示した。死刑の存続・廃止の問題は、考え方・立場・時代・感情等の問題があり意見が分かれる。日本の死刑制度の運用の写真や資料を示された。とくに『秘密主義』があることをつまびらかにされた。日本の死刑執行は、ある朝突然本人に告げられ、その日に行われてしまうのだ。これは他の国にはない日本だけの『秘密主義』であると剔抉した。

¹⁰⁰ 拙論「宗教はコロナウイルス後の社会をどう目指すか—第1章—」(WCRP 平和大学講座 2022年 3頁)、拙論「宗教帝国のエクスーシアが世界を滅ぼす—第1次ウクライナ・ボランティア報告—」(共 神戸国際支縁機構 2022年 9頁)。

¹⁰¹ 権力に暴力は付随するのが必然と、アーレントは言う。「ただたんに活動するだけでなく、[他者と]一致して活動する人間の能力に対応する。権力は決して個人の性質ではない。それは集団に属するものであり、集団が集団として維持されている限りにおいてのみ存在しつづける」『暴力について—共和国の危機』(ハンナ・アーレント 山田正行訳 みすず書房 2000年 115頁)。

¹⁰² 『現代思想からの動物論』(ディネシュ・J・ワディウエル 人文書院 2019年 108頁)。

c.動物のいのちをないがしろにする

2024年1月18日午後5時ごろ、石川県珠洲市宝立町^{ほりゅう}の納屋が全焼し、上野次郎さん(65歳)が焼死されました。ペットの雄の柴犬「コロ」と雌の三毛猫「ナナ」を避難所に同伴できないため、倒壊した家ではなく、納屋におられました。『MRO 北陸放送』(2024年1月18日18時22分)。

不特定多数の人が集まる場所に、「ペットの同伴お断り」が全国いたるところで、根付いています。公衆衛生上の理由とは別に、日本人の意識の奥底のどこかに「動物はケガラシイ」との感覚があるために、棲み分けすることになります。病院や、また標本の実験室ですらヒトと動物は分別されます。患者さんにアニマルセラピーとして避難所に同伴することですら拒絶されます。欧米では救急外来でさえ、動物の持ち込みが許されているのと大きな違いです¹⁰³。

日本人は生活空間を「ウチ」と「ソト」に厳密に区分します。一般的に土足で部屋に入って来られるとき、強く抵抗を感じます。「ウチ」と「ソト」を分ける「敷居」はまたぐべきものです。敷居を踏むという行為は「ウチ」と「ソト」の両方にかかるので、秩序をはみ出した、つまり乱したことになるのでタブーです。野生動物はソトの世界で生きているので、ウチに入ってきた瞬間、その行為はケガレとみなされます。つまり「野生動物の存在そのものが」ケガレとなります。これは単一民族と考える愛国者が外国人に対する排外主義のサインとしてヘイトスピーチ(憎悪発言 hate speech)につながる発露ではないかと考えたりします。

わが家はどちらかというと、日本人が持っている感性とは異なる西洋式の文化がある家風でした。曾祖父の時代から海外との交流がありました。曾祖父野辺地尚義^{たかよし}¹⁰⁴[1825-1909]についての記録があります。つまり欧米の動物観の影響があったことを否定できません。

日本人はイヌやネコを飼えなくなると、「殺すのはかわいそうだ」と捨ててしまいます。それに対して欧米では「人間と動物の間にはっきり線を引き」「動物をいちだん下に見下している」ためか、面倒をみきれなくなると、あっさり安楽死させてしまいます、と西洋と日本の文化の相違についてブリガム・ヤング大学歴史学部准教授は論じています¹⁰⁵。

東日本大震災が発生したとき、神戸新聞社から筆者に「死についての」定期的な講座¹⁰⁶を依頼されました。2011年4月から3年間、法律専門家、哲学者、宗教者に死生観を流し出していただきました。山折哲雄氏、アルフォンソ・デーケン氏、島菌進氏など多士多彩でした。しかし、動物の死、葬り、権利についてのテーマは一顧だにしませんでした。それだけ、筆者自身が人間中心主義に偏っていました。動物への虐待、象牙などの密漁のため殺害、人間の食欲の犠牲になって死ぬ運命のいのちにまったくの無関心でした。今となっては顔を赤らめるばかりです。講座は3年で終了しました。2013年に、中国四川省地震(7月)、丹波水害(2014年8月)、ネパール(2015年)などにゲリラよろしく飛び込んだ現場では、動物の死への弔い、喪失の哀しみ、動物によって飼い主が救出された証言をたびたび耳にするようになりました。なぜ日本では動物について無関心なのか、筆者はととりたてて記録、報告、発題もしませんでした。感覚が残っていないのです。社会¹⁰⁷は人間のみで構成しているという浅慮な風に押し流されてきました。愛がなかったとしかいいようがありません。私自身が「無分別、身勝手、薄情¹⁰⁸、無慈悲になったのです」(ローマ 1:31)。

¹⁰³ 『アニマルセラピーとは何か』(横山章光 日本放送出版協会 1996年)。『日本の動物観』(花園誠共 東京大学出版会 2013年 105頁)。

¹⁰⁴ 「府立英、仏、独、三語学校の監督に委せられ、次に明治三年、初めて女学校を同府に起こすや、更にこれが専務に任じたり。当時、これを女紅場と称し、実に日本女学校の嚆矢となす」(『東京朝日新聞』1909年3月5日)。

¹⁰⁵ 『犬の帝国—幕末ニッポンから現代まで』(アーロン・スキヤブランド 本橋哲也訳 岩波書店 2009年)。『日本の動物観』(瀬戸口明久共 東京大学出版会 2013年 181頁)。

¹⁰⁶ 『「死」を考える』講座 <http://mamowth.com/>

¹⁰⁷ 『朝日新聞』(2011年3月23日付)。『日本の動物観』(花園誠共 東京大学出版会 2013年 105頁)。

¹⁰⁸ 「薄情な」とはギリシア語 *ἄστυργος* アストルグース (< *στοργή* ストルゲー「愛情」から派生(自然の情愛を欠く、愛情のない、無情な)の意)です(ローマ 1:31)。

2024年1月、珠洲市宝立町の焼死事件を知った時、どうして今まで、問題にしなかったのか深く教えられました。ペットも見捨てられ、呻いて、泣いていたではないでしょうか。「実に、被造物全体が今に至るまで、共に呻き、共に産みの苦しみを味わっていることを、私たちは知っています」(ローマ 8:22)。

2011年、宮城県石巻市の避難場所渡波小学校の外につながれた痩せ細ったペットの恨めしそうな顔を忘れることはできません。福島県相馬市で9.3m以上、宮城県石巻市で8.6m以上、岩手県大船渡市で40.1mの津波が観測されました。「避難所に入れないたくさんさんのペットがいる」ことを報じた新聞もありました。しかし、メディアにとりあげられたのは皆無に近かったでしょう。

ニンゲンのケアばかりにひとつの世代、およそ30年にわたりボランティアに携わってきました。

正直に申し上げてほとんど動物にはケアしてきませんでした。自己の冷酷、薄情、無関心に臍をかみます。福島県浪江町で野生化したイヌ、飼育されていた豚との雑種猪豚について2012年も神戸からのジャーナリスト、学者、宗教家と共に現場の爪痕に嘆息しました。夜、動物が徘徊していました。家畜小屋ではなく、メルトダウンからの被害から解放された生命体でした。すると餌はだれが用意し、与えるのか、そのときは猪豚、やせこけた牛、野犬の目だけが光っていて闇の中で不気味な印象をもちました。「夜になりその中で森の生き物はみな動き回り」(詩編 104:20)、と。

(3) いのちの誕生

a. 創造物語

ニンゲンはどのようにつくられたのか聖書が述べている面を論じないわけにはいきません。無神論の方、非宗教、宗教嫌いの方とも歴史上なぜ動物に対する薄情がまかり通ってきたかを論判します。

キリスト教学者である水垣渉から筆者は教えられました¹⁰⁹。「聖書の伝統は最初から翻訳伝統であり、キリスト教は翻訳宗教であることを歴史的の本質にしている」¹¹⁰、と。聖書原語を生業にしていた筆者はヘブライ語(アラム語、ギリシャ語)至上主義という内向きの翻訳学¹¹¹の論証にたくありません。教会外の人、教会教父の伝統的な翻訳によって踏み固められた既成概念に固執する人¹¹²、カルトと社会的批判を受けておられる方々にも申し上げます。「聞く耳のある者は聞きなさい」(マルコ 4:23)。大量の動物を家畜化し、痛みも感謝も感じることなくスーパーで動物の肉を買いあさる現代人は、人類史上、もっとも野蛮な段階にあるかもしれません。人間が引き起こした地球温暖化の最初の犠牲になるのも動物たち¹¹³です。

いずれにしても、21世紀は私たち人類にとりまして自己吟味の「時」です。子々孫々が動物虐待の責任を免れることを望みます。筆者は、つみびとの頭として自戒に基づいて、創世記から検証します。

¹⁰⁹ 前述の脚注 26 参照。

¹¹⁰ 「正しい」解釈をめぐる懐疑から当然出てくる論理的帰結は、解釈との関係において権力に授けられる利益とその問題の果たす役割がポストモダンにおいてますます積極的に考察されるようになった。『「自然」を神学する』(A.E.マクグラス 芦名定道、杉岡良彦、濱崎雅孝訳 教文館 2011年 212頁)。

¹¹¹ 「原典への忠実さ」か「慣れ親しんだ言葉」かという歴史的論題に、筆者が出席したフォーラムでは、スコポス(機能・目標)理論のオランダ国アムステルダム自由大学のローレンス・ド・プリス教授は翻訳学について示唆に富んでいた。神は聖書を通して語っているだけでなく(神の靈感)、聖書の中で明確に語っている「明瞭さ」は、神の言葉を前にしたときの従順、畏れ、謙遜を啓発、照明、導き出すのに有益なことを再確認。「国際聖書フォーラム 2006 講義録」(日本聖書協会 ホテルニューオータニ 2006年 247頁)。

¹¹² 「この民の心は鈍り 耳は遠くなり 目は閉じている」(マタイ 13:15)。20世紀後半、各家庭に普及したテレビの影響などで、映像を媒介にしないと物事を考察できない世代もいる。キリスト教界も「誰も健全な教えを聞こうとしない時が来ます。その時、人々は耳触りのよい話を聞こうと、好き勝手に教師たちを寄せ集め」(IIテモテ 4:3)。健全な聖書のことばを慕い求める姿勢が退化すると預言。

¹¹³ 『京都新聞』(2008年 10月 3日)。寄稿者小原克博同志社大学学長は、「人が人であり得ているのかを測る大切な指標を、動物たちは与えてくれているのだから」と結んでいる。

人が創造された聖書の場面の描写から論戦に入ります。「神である主は、土の塵で人を形づくり、その鼻に**命の息**を吹き込まれた。人はこうして**生きる者**となった」とあります(創世記 2:7)。聖書原語のヘブライ語は次の通りです。(ヘブライ語, カタカナの発音併記, ローマ字の発音併記)。

וַיִּצַר יְהוָה אֱלֹהִים אֶת-הָאָדָם עֹפָר
מִן-הָאָדָמָה וַיִּפַּח בְּאַפָּיו נְשִׁמַּת חַיִּים
וַיְהִי הָאָדָם לְנֶפֶשׁ חַיָּה

ヴァイツェル アドナイ エロヒーム エト-ハアダーム アファル
ミン ハアダマー ヴァイパハ ベアヴァヴ ニシュマツト ハイーム
ヴァイエヒ ハアダム レ**ネフェシュ** **ハヤー**

vaitser Yahweh elohim et-haadam afar
min-haadama vaypah beapaw nismat hayyim
wayhi haadam len**nephesh haya**

人間について「命の息」(**נְשִׁמַּת חַיִּים** ニシュマツト ハイーム *hayyim nismat*)が吹き込まれると「生きる者」**נֶפֶשׁ חַיָּה** **ネフェシュ** **ハヤー**になったと説明されています。「(陶器師がこねて造る)(ヴァイツェル **יצר** ヤーツアル<「形作る」の意 *yatsal*>)のようにニンゲンが造られたと説かれています。文脈の動物についての記述も確かめます。

「神である主は、あらゆる野の**獣**¹¹⁴、あらゆる空の鳥を土で形づくり、人のところへ連れて来られた。人がそれぞれをどのように名付けるか見るためであった。人が**生き物**それぞれに名を付けると、それがすべて**生き物**の名となった。人はあらゆる家畜、空の鳥、あらゆる野の**獣**に名を付けた」(創世記 2:19,20)。動物も土で造られたのです。

וַיִּצַר יְהוָה אֱלֹהִים מִן-הָאָדָמָה כָּל-חַיַּת
הַשָּׂדֶה וְאֵת כָּל-עוֹף הַשָּׁמַיִם וַיָּבֵא
אֶל-הָאָדָם לְרִאִוֹת מַה-יִּקְרָא-לוֹ וְכֹל אֲשֶׁר
יִקְרָא-לוֹ הָאָדָם **נֶפֶשׁ חַיָּה** הוּא שְׁמוֹ
וַיִּקְרָא הָאָדָם שְׁמוֹת לְכָל-הַבְּהֵמָה וּלְעוֹף
הַשָּׂדֶה וְלִכָּל חַיַּת הַשָּׂדֶה

ヴァイツェル アドナイ エロヒーム ミン ハアダマー コル **ハヤツト**
ハサデー ヴェエツト コル オフ ハシヤマイム ヴァヤヴェー
エル ハアダム リルオツト マー イクラー ロー ヴェホル アシエル
イクラー ロー ハアダム **ネフェシュ** **ハヤー** フー シェモー
ヴァイクラー ハアダム シェモツト レホル-ハベヘマー ウレオフ
ハシヤマイム ウホレル **ハヤツト** ハサデー

vyither adonai elohim min-haadama kol **hayat**
hasade veet kol of hashamayim vayave
el-haadam liroto mah-yiqra lo vehol ashel
yiqra lo haadam **nefesh haya hu shemo**
vaiqra haadam shemot rehoru habehema ureof
hashamayim ulehol **hayyat** hasade

¹¹⁴ 「獣」は誤訳。「生き物」と一貫して訳すべきである。

聖書翻訳で訳出されている「獣」とはなんですか。聖書原語であるヘブライ語や聖書を知らない人でさえ、「動物」と解釈するのが自然です。「動物」と「獣」は同じ定義なのでしょう¹¹⁵。問題は、ヘブライ語ネフェシュ **ハヤー**を前述の人間が造られた際、「生きる者」となると訳出しているからです。動物も人間も双方、「生きるもの」(ネフェシュ **ハヤー**)です。にもかかわらず、ハヤットを「獣」と訳しているかと思えば、20 節では「生き物」と訳しています。一貫していません。人間中心主義の教義が訳に影響を与えてきたと筆者は考えます。「神は知性を持った被造物を至福直観へ運命づけた」¹¹⁶、とキリスト教会は信奉させてきました。つまり知性を持った人間による人類歴史こそ幸福の源泉とみなしてきました。しかし、聖書テキストはニンゲンも動物も双方とも土から創造されたと証言していたことを忘れてはいけません。その上、死ぬ場面も、聖書では、人間だけが特別なわけではありません。「乾いた地にいたすべてのものの中で、鼻に命の息¹¹⁷のあるものはすべて死んだ」(創世記 7:22)。

כל אֲשֶׁר נְשַׁמְת־רוּחַ תַּיִם בְּאֶפְיוֹ מִכָּל אֲשֶׁר בְּתַרְבֵּה מֵתוּ כּוֹל אֲשֶׁר נִשְׁמַט לְרוּחַ חַיִּים בְּאֶפְיוֹ מִכָּל אֲשֶׁר בְּתַרְבֵּה מֵתוּ
 ルアハ¹¹⁸ ハイム ベアパヴ ミコル アシェル ヘハラヴァー メートウー kol aser nismat
 ruah hayyim beappaw mikkol aser beharabah metu.

人間も動物も、死ぬ際、「命の息のあるもの」**ニシュマツト ルアハ ハイム**が土に帰ります。したがって、「命の息」(ネフェシュ **ハヤー**)、「ルアハ」(霊)、「土」(アダーマ)といった構成要素は平等であり、優劣はありません。被造物として、双方共通の存在です。

「人間は栄華のうちにはとどまらず 屠られる家畜に等しい」(詩編 49:13)。

「人間は栄華によって悟ることはできず 屠られる家畜に等しい」(詩編 49: 21)。

動物も人間も不滅ではありません。死ぬ運命にあります。生者必滅会者定離です。「私は運命など信じない。動物とちがって、神様が天国へ導いてくれるわ」と頑迷におっしゃっても、宝くじより高い確率、否、100 パーセント、必ず、いのちは尽きるのです。ネフェシュ **ハヤー**は、哲学者マルティン・ハイデッガー[1889-1976]が「死へ臨む存在」¹¹⁹と言ったように成就するのです。

「人の子らの運命と動物¹²⁰の運命は同じであり、これが死ねば、あれも死ぬ。両者にあるのは同じ息である。人が動物にまさるところはない。すべては空である」(コヘレト 3:19『聖書協会共同訳』)。

提言があります。「動物」を「獣」とする使用を自粛するのです。名誉毀損、蔑称ゆえに放送禁止用語があるように配慮が必要です。昨今、SNS 投稿で不適切と規制がかかっったりします。同様に、動物に対しても、「獣」というステレオタイプの発言は不適切です。「獣」という一律的な訳語を禁止すべきです。語源どおりに訳出する真摯なモラルを求めます。もちろん機械的にではなく、敷衍訳、意識に陥らない姿勢¹²¹が肝要です。テキストの解釈が文脈から良心的な判断がなされるべきです。

¹¹⁵ 英語の animal と ^{ビースト}beast を比較。run like an animal 動物のようにすばしこく走る。beast 四足獣; 比喩的にはいやしい欲望・獣性を暗示: eat like a beast 動物のようにながめつ食う。独語 Tier ティアー^アは両義がある。仏語は、動物 animal アニマルだが、獣 bête ベトと区別。類語の animal と beast の相違: 「(前者)「動物」を意味する普通の語。比喩的には、精神的と切り離して肉体的・動物的特徴を意味し、必ずしも悪い意味はない。『英和中辞典』(旺文社 1993 年 94 頁)。ギリシャ語『セプトゥアギンタ訳』(ヘブライ語旧約のギリシャ語版)では「獣」にどのような訳語には θηρίον セーリオン therion。英語 beast はラテン語 bestia ベステシアから由来。

¹¹⁶ 『カトリック教会文書資料集』(デンツィンガー・シェーンメッツァー 浜寛五郎訳 1992 年 672 頁)。

¹¹⁷ アニマルは「息」(breath)を意味するラテン語 anima に由来。イギリスの人類学者エドワード・タイラー[1832-1917]は著書『原始文化』で、「原始(未開)宗教」をアニミズム animism と定義。

¹¹⁸ 「命の息」のルアハは、「風」、「霊、聖霊」とも訳される。

¹¹⁹ 『存在と時間(下巻)』(ハイデッガー 細谷貞雄、亀井裕、船橋弘訳 理想社 1974 年 42 頁)。

¹²⁰ בְּהֵמָה ベヘマー behemah を「動物」と訳さず、「獣」と訳している聖書は人間中心主義のなごり。『関根訳』、『フランシスコ会訳』、『新改訳 2017、新改訳改訂 3、新改訳』、『口語訳』、『バルバロ訳』、『現代訳』、『新世界訳(1982 年版)』、『ヴァルガタ訳第三巻』、『文語訳』、『元訳』など。一方、『新共同訳』(1987 年)、『岩波訳』(1998 年)、『聖書協会共同訳』(2018 年)、『新世界訳』(2019 年)は、場面によって、「動物」、「野生動物」の訳語も登場。だが、偏見、差別、人間優位の教義の片鱗がある。ダニエル 2:38 参照。

¹²¹ 文訳 refined translation(洗練された訳)、質訳 unhewn translation(粗野な訳)の文質論争は 150 年継続。仏典漢訳で釈道安[312-385]中国仏教の基礎を築いた僧。「五失本(ごしつぽん)・三不易(さんふえき)」を主張。漢訳の際に原本の形を失しても可とする 5 項目と、原本の義を決して改変してはならない 3 項目。ハヤット、ベヘマー、ヘヴァ(ダニエル 2:38 アラム語)などを「獣」とするのは誤訳。

b. 冷酷な種差別

『人間であること』とは、今のところ『ホモ・サピエンス』と銘打たれている分類単位の一員であること、するとそれに属さない生き物は我々の多くにどんなに似ているように見えても、人間ではないことになる¹²²、トリバプール大学のスティーブン・クラーク[1945-]名誉教授は、「人類(つまり人間性(humanity))と種族を類別することに疑義を呈しました。

アルゼンチンには、サンドラ¹²³というオランウータンがいます。サンドラに対して「人身保護条例 habeas corpus」^{ape エイフ}が連邦刑事裁判所から発行されました。ニュージーランドでは、大型類人猿を「人間ではない人類」^{かつらお} non-human hominids として認定しました。

福島県浜通り葛尾村の黒毛和種の繁殖農家だった松本哲山さん(67歳)には、2011年6月9日、「別れの日」が来ました¹²⁴。決断した酪農業の7人とともに牛舎から牛をひき出しました。トラックの荷台に乗せて広場に集めました。「はなこ」「ひばり」「太郎」……。生まれて間もない子牛は、まだ犬ほどの大きさでした。牛の鼻環にロープをつけ1頭ずつ柱などに結わえました。

白い防護服を着た県職員が1頭ずつ首に注射を打ちます。牛は鳴き声を上げます。松本さんには悲鳴に聞こえました。牛は両目から涙を流しています。しばらく耐えています。やがて脚を折り崩れるように倒れました。「傍らで順番を待つ牛も涙を出していた。みんな死ぬことを分かっていた」と。死骸は消石灰をかけられ、青いシートで覆われました。メルトダウン当時は、放射性物質に汚染されたとして地中に埋葬^{かつらお}も許されませんでした。

2019年10月24日、福島県の坂本勝利さん(82歳)の農園に家畜保健衛生所の職員がやってきて、東日本大震災で被ばくした牛、最後まで残っていた13頭の牛に次々に薬物を注射しました。坂本さんは、その様子を見続けられました。「一頭が倒れるとほかの牛は心配そうに寄ってくる。何が起きているのか、わかっているんだね。だから最後のお願いだ。穴に運ばれる牛の姿をほかの牛に見せないでくれと頼みました」¹²⁵。「本当の復興は、立派な建物や施設をつくることではなく、被害を元に戻す復旧の先にあるんですよ。……でなければ、死んだ牛は浮かばれません」。「なぜ罪のない牛が死ななければいけなかったのか」と語られました。

原発事故で犠牲になった牛の慰霊碑をつくった報道がなされました。餓死したり安楽死させられたりした牛の慰霊碑を福島県双葉畜産農協が富岡町の富岡工業団地公園に建てました。翌15日、除幕式でした。碑には次のように記されていました。「愛牛達を、我が子同様にいとおしみ育んできた生産者にとっては、いま断腸の思いあるのみ」。

ニンゲンは動物をたいせつにしてきたとは決して胸をはれません。自分を振り返って、「いのち」について政・官・財・学やメディアよりも、神経、良心、知解により、重んじてきたとは言えません。むしろ人種差別、そのものでした。平気で牛、鶏、動物を「種差別」してきました。「学術的分類とは範疇に属するものです。これを自然的分類は繁殖を考慮した関係によって分けるが、学術的分類は類似性により分ける」¹²⁶、とカントは、種の形成という概念を定着させました。哲学の道徳、倫理、教理に齟齬はなかったでしょうか。水平線上に浮かび上がってくるポリス国家時代から、動物は人間の従属化した奴隷、道具、便利屋に成り下がってきた悲劇の史実があります。アリストテレスは「動物のうちで言葉をもっているのはただ人間だけだからである。……家や国を

オランダ在住の聖書学者村岡崇光[たかみつ 1938-]は、「動物」と訳出。『岩波訳』ダニエル書(1998年)。

¹²² 『ポリス的動物』(スティーブン・R・L・クラーク 古牧徳生訳 春秋社 2015年 102頁)。現実に存在しているのは種族ではなく、「生類」(Lifekind)であり、「違う種に属する」といった生物学的種を自然種と考えるのはやめるべきと提唱した。

¹²³ サンドラには十分な認知能力があり、物体として扱われるべきではないと。裁判所はサンドラに「人間ではない人格」としての基本的権利が付与されるべきと判断した。『ロイター通信』(2014年12月22日 午後3:12)。ヒト科オランウータン属に分類されるオランウータンは、その語源が「orang(人) hutan(森) = 森の人」である。遺伝子の97%が人間と一致するとも言われている。

¹²⁴ 『朝日新聞』(2016年4月16日付)。

¹²⁵ 『東京新聞』(2020年6月16日付)。

¹²⁶ 『カント全集』第三巻(カント 坂部恵編、福谷茂訳 岩波書店 2001年 397頁)。カントは理性的な行為者だけが道徳的価値を持つ。

作ることのできるのは、この善悪等々の知覚を共通に有していることによってである¹²⁷、と人間の優位性を語るばかりか、「奴隷と動物との間に、有用さという点ではたいした相違は存しない¹²⁸との思索はキリスト教神学、カール・フォン・クラウゼヴィッツ¹²⁹[1780-1831]の戦争論、カール・シュミット¹³⁰[1888-1985]たちの論にDNA継承されてきました。

国家の「生政治」(biopolitics)の論理、すなわち西洋政治学の基本を構築したと言えます。人間・動物を従順にさせる主権的暴力に必須条件は3つあります。第一に、エクスーシア(権威・権力)の統治組織、二番目に、生殺与奪を決定する「法」があること、三番目に、「牧羊権力」です。宗教団体を客観的に考察すれば首肯できます。第一に、統治体なる法王、次に、教会政治の憲法(取り決め)、末端は自治会単位の組織、教導権を徹底し、ある場合に魔女狩りをする自警団的エクルーシブ(排除)システムを施行します。ガバナンスによる画一的な構造になっています。

フクシマの牛の例から判断できますように、「お上(かみ)」は牛が被ばくしているから殺傷せよと通告。上意下達の命令に逆らえません。地域、地方、ムラという会衆単位で行う生政治です。仕組みは、「通達、告知、案内」を頂上から発信します。次に、施行するにあたり、「法令順守」を徹底します。したがって、支配する者が「強い者」でなくていいのです。『監獄の誕生』¹³¹の著者ミシェル・フーコー[1926-1984]が近代の処罰は「体から魂」へシフトした知見に私たちは覚醒します。

アリストテレス的哲学とキリスト教神学を総合させた中世最大のスコラ学の代表的神学者であるトマス・アクィナス[1225-1274]がいます。著書『神学大全』において、人間と動物の本性の相違を述べています。古代ローマ時代のストア派哲学者ルキウス・アンナエウス・セネカ[紀元前1年頃-65]は述べました。「彼から害を加えられたわけでもなく、彼が罪人であるわけでもないのに、その人に対して凶暴な振る舞いをする者は、苛酷crudelitasな者とは呼ばれず、残忍feritasな者とか残酷saevitatisな者とか呼ばれる」(『寛容について』第二巻)に対して、アクィナスは人間の悪徳と獣性が根本的に異なることを立証しました。動物には、残忍なしいは残酷が獣性のうちに含まれることは明らかという根拠をあげます。動物を苛む喜びは人間的なものではなく、獣的なものだからです。それは獣的な感情と同じく、悪しき習慣あるいは本性の欠損に起因すると倫理の相違をアクィナスは指摘しました¹³²。

130年に及ぶ宗教改革の最終章、1646年にプロテスタント信仰の核として、ウエストミンスター信条¹³³が英国で成立しました。「創造の冠として造られた人間には、他の動物に見ることが出来ない尊さが与えられている」¹³⁴、と。「創造の冠」と、人間中心主義の聖書解釈の規矩準繩きくじゆんじようが再認識されました。人間は神の似像につくられたゆえにニンゲンは万物の長として、動物を支配、管理、統治する権能が神から委ねられたとクレド(「吾信ず」と告白してきました。筆者の教会も阪神・淡路大震災発生の1995年から、教会形成にあたりウエストミンスター信条を指針としてきました。

¹²⁷ 『アリストテレス全集 15 政治学』(アリストテレス 山本光雄訳 岩波書店 1977年7頁)。

¹²⁸ 『アリストテレス全集』(前掲書 14頁)。

¹²⁹ 拙論「キリスト教と非戦」(OCC カレッジ講義 エラスムス平和研究所 2015年 10頁)。

¹³⁰ 拙論「キリスト教と非戦」(前掲書 11頁)。主権者の権力行使の最たる痕跡は「例外」を作り上げる。「緊急事態条項」(国家緊急権)とは「戦争、内乱、恐慌ないし大規模な自然災害などで、平時の統治機構をもってしては対処できない非常事態において、国家権力が国家の存立を維持するために、律法的な憲法秩序(人権の保障と権力分立)を一時停止して非常措置をとる権限」を首相や内閣に超法規的な権限を与える。

¹³¹ 拙論「民主主義の限界」(関西学院大学法学部 2023年 13,14頁)。

¹³² 『神学大全』で知られるスコラ学の代表的神学者。アリストテレス的哲学とキリスト教神学を総合させた中世最大の哲学者。『神学大全 22』第II-2部(トマス・アクィナス 渋谷克美&大鹿一正訳 創文社 1991年 170頁)。アクィナスは、「理性のない動物に対する虐待はそれ自体悪いことだとは言っていない」。

¹³³ 信仰告白、大教理問答、小教理問答の3つから成る。テキストの正確さについて、関西学院大学村川満名誉教授は「ウエストミンスター信仰告白」について「あまり信用ができません」と、『ウエストミンスター信仰告白研究』(村川満 一麦出版社 2008年 129頁)。

¹³⁴ ウェストミンスター大教理問答12:「神の創造された人間と他の被造物との創造に、質的な差があることを明言しています。人間と他の動物たちとは、根本的に異なることを明らかにしています」。小教理問答10:「神は、知識と義と聖において、御自分にかたどって、人を創造し、男と女に創造された。しかも、被造物を支配するものとして創造された」。被造世界を治め、管理し、開発する責任を、神に対して負っている。『ウエストミンスター小教理問答』講義(上)(春名純人 聖恵授産所出版部 2009年 101-105頁)。

信仰生活における「概念」、「観念」、「信仰」へと構築の基準でした。現在も日本カルヴィニスト協会のメンバーであります。「疑う者は救われ、信じる者は救われない」と懐疑の告白を是としながら、人間論的集中 *humanocentricity* の導線を踏襲する歴史的キリスト教会と軌を一にしてきました。

しかし、種差別に対する罪責感、1.1 大震災の焼死事件(本稿 14 ページ)が転換点になりました。社会に動物などを排除してきたことに良心がうずくようになりました。人間以外の生きものに対する種差別は「スチュワードシップ」(受託者責任)論に基づきます。人間を自然に対する「配慮深い支配者」(リートケ¹³⁵)、「管理者」^{スチュワード}、「信託者」(モンテフィオーレ¹³⁶)と定義しても、人間中心の解釈的図式は保持されたままです。前述のリン・ホワイトは「ユダヤ・キリスト教は人類史上でもっとも人間中心主義的な宗教なのである」¹³⁷、と断じるのもあながちまちがっているとは思えません。人間はスチュワードシップにより被造物を世話しているのではありません。「神の像」*imago Dei*につくられたにもかかわらず、「共なる被造物は、虚無に服して〔虚無へと屈服させられて〕いる *ὑπετάγη* ヒュペタゲイ *hupetagei* (hupo 下に +tasso 配置する)」。しかし、それは被造物自身の罪責によるのではなく(「自分の意志によるのではなく」)、まったく「屈服させた者による(*διὰ τὸν ὑποτάξαντα* ディア トン ヒュポタクサンタ *dia ton hupotaxanta*)のである」の「屈服させた者」は神ではなく、人間であると聖書学者武田武長[1942-]教授が註解¹³⁸している通りです。したがって、今に至るまで被造物が「呻いている」は人間の責任ということになります。

これまで宗教が動物虐待の元凶という事例をあげてきました。カール・マルクス[1818-1883]が「宗教の批判はあらゆる批判の前提」、「宗教上の不幸は、一つには現実の不幸の表現であり、一つには現実の不幸に対する抗議」、「宗教は阿片」¹³⁹と糾弾するのも無理からぬことです。マルクスの弁証法的な思惟の親である哲学者ヘーゲル[1770-1831]¹⁴⁰は、「正(テーゼ)」、「反(アンチテーゼ)」、「合(ジンテーゼ)」を唱えました。「能登半島は日本で一番美しい」(正)が、地震・津波・隆起によって、「地獄であり人は住めなくなった」(反)。しかし、「災害は土壌を肥沃にする」(合)のアウフヘーベン *aufheben* の「止揚」に立ち向かえるかの挑戦が本稿の目標です。動物の解放¹⁴¹の神学です。

c.動物の解放

20 世紀の著名な神学者カール・バルト[1886- 1968]¹⁴²は「動物たちは、人間と違って、また被造的な世界の内部においても、決して独立した威厳と機能をもっていない。動物は人間に付属、人間の世界の一部である」、と歴史上の人間中心主義的な前提で論を切り出しました。ニンゲンは「神の地上の代理者」と述べ、人間の創世記を説明します。「*radah*¹⁴³は労働と貢物をなすようにと督励する命令の力であり、*kabasch* は踏みつけること、支配者の意識をもって何かを踏み

¹³⁵ 旧約学者のゲルハルト・リートケ[1937-] は、著書『生態学的破局とキリスト教』で「奴隷売買の歴史—西アフリカは 1441 年から 1860 年の間に約 2000 万人失った—と南北アメリカ大陸でのインディアン根絶やしの歴史とは、白人が黒人とインディアンとを人間としてではなく動物とみなした」と。

¹³⁶ Hugh Montefiore 英国聖公会の神学者ヒュー・モンテフィオーレ[1920-2005]。

¹³⁷ 『機械と神』(前掲書 87 頁)。

¹³⁸ 『エコロジーとキリスト教』(武田武長共 富坂キリスト教センター編 新教出版社 1993 年 203-204 頁)。3

¹³⁹ 『マルクス・エンゲルス全集第 1 巻』(マルクス 大内兵衛、細川嘉六訳 大月書店 1967 年 415 頁)。生産力(技術的でかつ経済的な)と、生産の社会的関係(社会を組織する)の関係を追求。

¹⁴⁰ フリードリヒ・ヘーゲル[1770-1831] ドイツの哲学者。「花は美しい」⇔「花は枯れる」。ヘーゲルは「一つの事物・命題には必ずそれ自身の否定が含まれる」⇒「実(合)」が次世代に継承される。『ヘーゲル全集 4』『精神の現象学 上』(岩波書店、1971 年 51 頁) アウフヘーベン *aufheben*「廃棄〔止揚〕、以下頻出する廃棄の場合も同様」

¹⁴¹ 拙論「解放の神学とは何か」(神戸国際キリスト教会 2021 年 1 頁)。

¹⁴² カール・バルト[1886- 1968] 20 世紀のキリスト教神学に大きな影響を与えたスイスの神学者。弁証法神学。

¹⁴³ *kabash* は目的語に人間ではなく、「地」の場合、「所有する」、「占拠する」の意。参照聖句:「この地は主の前であなたがたの所有地となる」、「地を彼らの所有地として与えなさい」(民数 32:22,29)、「主がこの地の住民を私の手に渡され、この地は主とその民の前に従うようになった」(歴代誌第一 22:18)。土地そのものは所有されるだけである。『聖書とエコロジー』(リチャード・ボウカム 山口希生訳 いのちのことば社 2022 年 35-36 頁)。

つけ、通行可能にするという」と註解します¹⁴⁴。しかしながら、バルトは今までの「支配する」積義と異なり、深遠な聖書理解を開陳しました。聖書字句拘泥主義でない視座です。

「神的な支配と人間的な支配の間の不平等性は、自明的である。人間的な支配は絶対的でありえない。動物は人間に属しているということは言われていない。『地と、それに満ちるもの、世界と、そのなかに住む者とは主のものである』(詩篇 24:1『口語訳』)」と人間中心主義な価値観をバルトが否定したことは特別すべきことです。

キリスト教界は、通史において、人間中心主義、テクノセントリズム(技術中心主義)、科学主義は聖書解釈を曲解なさしめてきたと言えないでしょうか。動物へのケアは人間の利益を最優先にするために配慮されてきませんでした。

ニンゲンは動物を奴隷のように扱ってきました。ニンゲンが歴史を支配していくにつれ、自然は枯渇し、環境の危機は最高潮に達し、動物のいのちへの矮小化、侮蔑、黙殺が闊歩しています。すでに西暦一世紀の時ですら、動物を制御してきました。「あらゆる種類の獣や鳥、地を這うものや海の生き物は、人類が治めており、また治めてきました」。(ヤコブ 3:7)。生の操作、自然の枯渇、生き物に対する暴力行為はいのちを生む大地に満ちています。除草剤、化学肥料、電撃殺虫機は弱い生、傷つきやすいいのち、小さな虫を死んでも無関心です。目も向けられない領域でもがいている実験用動物をなぶり殺しにしています。生物にとり原状回復が望むべくもなく、君臨する人間はいのちと死の臨界点に鈍感になっています。ロシア・ウクライナ戦争、イスラエル・パレスチナ戦争、スーダンなどにおけるジェノサイド[集団殺害]の報道にも不感症になっています。孤児、夫をなくした独身女性、高齢の独居者たちをないがしろにする世界との共時性に漂流しています。冒頭に私たちは「同時代人」contemporaries と申し上げました。人類の時間は大破局に揺さぶられている生態系地球のカイロスと「時間」を共時化 Synchronisierung しているでしょうか。

地球存続の危険信号に対して、傍観者から行動していくのです。組織がなくてもひとりで立ちあがればいいのです。「あなたがたはどう思うか。ある人が羊を百匹持っていて、その一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、迷い出た一匹を捜しに行かないだろうか」(マタイ 18:12)。大きな組織に属していなくても、それぞれ心に動物と共生することを心に刻んでいけばいいのです。「刻む」というのは刃物で処理します。つまり生身の人間と動物ならば血が出ます。動物実験、燔祭や、屠る行程を想起します。もはや「血」、つまり流血なしに共存していく時代こそエコグラフィーの幕開けです。続いて、人間が緑の地球を不毛にしました。「土地倫理」、「動物への福祉」、「肉食」などについて、第6次の能登半島地震ボランティア報告で扱わせていただきます。

¹⁴⁴『創造論』I/1 創造の業<上>(カールバルト 吉永正義訳 1984年 231-232頁)。同書 380 ページで、「バルトは動物を支配する力は、生命と死を司る力ではなく、決して死刑を執行する権利ではない」と註解。

< 結論 >

1.1 大震災から半年を経ても、珠洲市などトイレが使えない辛苦が横たわっています。社会的弱者、抑圧されている者、差別に対して寄り添うことも出来ていません。今回の奥能登は急峻な山、海の狭間の集落は開発の波に弄ばれてこない良き地域です。それだけに古代からの風光明媚な日本の原風景があります。耕作する土地は狭く、農と漁で幾世紀も経てきました。特別な産業、工場、鉄道もないのです。大きな量販店も開店するスペースすらありません。ですから日本一美しい鄙ひなです¹⁴⁵。代々住まわれる独居の若狭幸子さん(85歳)は、壊れた家のなんとか寝起きできる一室にひっそりと生活されています。仮設住宅、避難所ではありません。珠洲市の街に行くのに、車で約半時間かかります。そんな窮乏の中であっても、壊れた納屋のがれきを撤去し、畑にして、野菜を植えておられます。村の漁師から魚を分けてもらっています。いわば自給自足の生活です。出村正廣さん(76歳)は「昔からの生活です」、とおっしゃいました。貧に処する宗教者が耳にして赤面するほど、都会の生活意識に対する衝撃でした

宮沢賢治[1896-1933]について、文化人類学者の嶋田義仁よしひと[1949-]元名古屋大学文学部教授は賢治が花巻病院の花壇作りに携わったことを紹介しています。貧しかった賢治が大正から昭和に変わる1926年を挟んだ2年間の間、黙々と汗を流したことに言及しました。花巻公立病院は賢治に園芸を依頼しました。賢治は患者さんを喜ばせるために花壇設計、外国から珍しい植物を取り寄せました。植物に造詣が深かったことは複数の証言があります。賢治自身の詩、短歌、童話には、約260種の草花と約120種の樹木が散りばめられています¹⁴⁶。カラスウリやプラタナスをランタンと表現する賢治独特の世界は多くの読者の心をとらえます。東北は、冷害もあり、農家の困窮は深刻でした。青森県では1931年の凶作のため、欠食児童は3235人に達しています。女性の身売りも珍しいことではありませんでした。樺太の地を訪れた時、「朝顔よりはむしろ牡丹ピオニアのやうにみえる おほきなはまばらの花だ まつ赤な朝のはまなすの花です」(「オホーツク晩歌」)、と植物の学名ピオニアにも精通していました。そんな赤貧の東北、樺太の時代だからこそ賢治は自然の中に生きるいのちの尊さを最大限に描写できました。

「獣」はキリストに抗う世界権力として聖書に登場します。だからと言って、すべての「獣」が人間ニンゲンにとり敵であると早計に判断すべきではありません。「土地倫理」の視座から、森林も解放されます。被造物である「森の木々」も喜び歌います。「森の木々も、喜び歌え」(歴代上 16:33, 詩編 96:12)。

たとえば、「イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て、飼い主のいない羊のような有様を深く憐れみ、いろいろと教え始められた」(マルコ 6:34)。「羊飼いのいない羊」と言い表されているように、ニンゲンと動物の本質は親しい関係です。

動物と人間が共生している場面が「神の國」です。「生き物、すべての生き物(岩村訳)よ 地を這うものよ、翼ある鳥よ……若者もおとめも 老人も子どもも共に。主の名を賛美せよ」の到来実現のために発信します(詩編 148:10,13)。

¹⁴⁵ 『能登 世界一美しい半島へ』(飯塚幸夫 能登編集室 2024年)。2024年6月に Kimiko Mimura Ruth 氏から紹介。

¹⁴⁶ 『宮沢賢治と植物: 植物学で読む賢治の詩と童話』(伊藤光弥 1998年 14頁)。